

昭和三十九年三月十日招集(第一号)
第一回市議定会例会々議錄

昭和三十九年第一回館山市議会定例会々議録(第一号)

昭和三十九年三月招集

一、三月十一日(水曜日)

一、現在議員三五名でその氏名次の通り。

一番	吉田勇治郎	二番	鈴木正一郎
三番	小柴孝	四番	館石伝蔵
五番	田中緑郎	六番	秋山六三郎
七番	田村源治郎	八番	望月照正
九番	安西益男	一〇番	辻田実
二番	石井正	一二番	黒川佐太郎
一三番	菊井敏博	一四番	志村信作
一五番	小沢恵太郎	一六番	関武夫
一八番	西村真次	一九番	藤田好治
二〇番	保科忠夫	二一番	江田徳太郎

二番 君塚喜三 二三番 中村省吾

二四番 島野茂樹郎 二五番 荻生田七郎

二六番 鈴木 孝 二七番 嶋田 繁

二八番 山田 教字 二九番 鈴木 市蔵

三〇番 安藤 竜吉 三一番 安沢 徳順

三二番 三沢 節 三三番 高橋 文治

三四番 山本 昇 三五番 松本 藤太郎

三六番 山口 康

一 議事日程 (第一号)

第一 請願書

第二 認定第一号乃至第八号決算審査特別委員会委員長報告

第三 市長施政方針並びに議案の趣旨説明

議案第一五号 館山市文化財保護条例の一部を改正する条例

の制定について

議案第一六号

館市図書館条例の一部を改正する条例の制定について

議案第一七号

館市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する

条例の制定について

議案第一八号

館市学校取員給与条例の一部を改正する条例の

制定について

議案第一九号

館市消防団条例の一部を改正する条例の制定

について

議案第二〇号

館市取員等の旅費に関する条例の一部を改正

する条例の制定について

第四

議案第二一号

館市長助役収入役の給与及び旅費に関する条

例の一部を改正する条例の制定について

議案第二二号

館市畜産奨励委員設置条例の一部を改正

する条例の制定について

議案第二三号

非常勤の特別取の取員に係る報酬及び費用弁償

議案第24号

に關する条例の一部を改正する条例の制定について
館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定
について。

第五 議案第25号

館山市上水道特別会計条例の制定について。

第六 議案第26号

昭和三十一年度館山市一般会計入支出追加更正予算

議案第26号

同 特別会計公益質屋入支出追加更正予算

議案第26号

同 国民健康保険入支出追加更正予算。

第七 議案第26号

同 畜場入支出追加更正予算。

議案第26号

同 蛇切簡易水道入支出追加予算。

議案第26号

同 休養施設追加更正予算。

議案第26号

同 ユース・ホステル入支出追加更正予算。

第八 議案第26号

議決の變更について。

第九 議案第26号

昭和三十一年度館山市一般会計予算

第十 議案第26号

同 公益質屋特別会計予算。

第一議案第七号

同

国民健康保険特別会計予算

第二議案第八号

同

と畜場特別会計予算

第三議案第九号

同

簡易水道特別会計予算

第四議案第十号

同

休養施設特別会計予算

第五議案第十一号

同

館山市スホステル特別会計予算

第六議案第十二号

同

上水道特別会計予算

第七議案第十四号

同

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定

について

第八議案第十五号

幼稚園保育料徴収条例の全部を改正する

条例の制定について

第九議案第十六号

館山市財政調整積立金処分について

第十議案第十七号

里見氏居城復元資金積立金条例を廃止する

条例の制定について

第十一議案第十八号

指定金融機関の指定について

第三議案第三九号

館山市営館山プール使用条例の一部を改正する条例の制定について。

第三議案第三十号

館山市国民健康保険税条例の制定について。

第三四議案第三十一号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について。

第三五議案第三十二号

館山市青少年問題協議会設置条例の制定について。

第三六議案第三十三号

館山市取員の被服等貸与に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

第三七議案第三十四号

館山市連絡委員設置条例の一部を改正する条例の制定について。

第三八議案第三十五号

館山市監査委員条例の制定について。

第三九議案第三十六号

館山市立小學校設置条例の制定について。

第四〇議案第三十七号

館山市立中學校設置条例の制定について。

第三一議案第三八号

館市立高等学校設置条例の制定について

第三二議案第三九号

館市立幼稚園設置条例の制定について

第三三議案第四〇号

館市営プール設置条例の制定について

第三四議案第四一号

部課設置条例の制定について

第三五議案第四二号

館市と畜場の設置及び管理に関する条例の制定について

第三六議案第四三号

館市火葬場及び葬祭用具の設置及び管理に関する条例の制定について

第三七議案第四四号

館市営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について

第三八議案第四五号

館市財政調査基金の設置管理及び処分に関する条例の制定について

第三九議案第四六号

物品購買基金の設置及び処分に関する条例の制定について

第四〇 議案第四号

館市行政財産使用料等に関する条例の制定に

ついて、

第四一 議案第四八号

議会が議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の制定について

第四二 議案第四九号

議会が議決に付すべき公の施設を独占的利用等に関する条例の制定について、

第四三 議案第五一号

館市水道条例の設置及び管理に関する条例の制定について

第四四 議案第五二号

館市清掃事業運営審議会設置条例の制定について、

第四五 議案第五三号

館市固定資産評価審査委員会・委員選任につ

第四六 議案第五四号

館市取組員定数条例の一部を改正する条例の制定について、

第四七 議案第五五号

清掃条例の一部を改正する条例の制定について

第四八 議案第五六号 市道路線の認定について。

第四九 議案第五七号 館山市建設計画の変更について。

第五〇 議案第五八号 つつじの購入について。

第五一 議案第一三三号 失業対策事業用小型トラックの購入について。

一、法律百二十一条による出席説明員

市長 本間 譲

助役 小出 武男

収入役取務代理者 伊東 祐一

総務課長 山口 実

秘書課長 小倉 登男

税務第一課長 高木 哲三

税務第二課長 多田 俊一

農産統計課長 伊藤 幸太郎

厚生課長 吉田 新一

消防署長

岩田

実

市民課長

羽山房雄

建設課長

新井重助

商工水産課長

長谷川広治

福祉事務所長

鶴沢寛寛

観光課長

小沢正治

保険課長

池田亮山

企画室長

谷貝茂生

環境書記長

大嶋重義

豊房診療所事務長

岩崎一郎

教育課長

工藤和平

庶務課長

干場伊右内

社会教育課長

利田正男

一本議合、事務局長、書記及び取員

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

太田博雄

書

記

兵藤恭一

取

員

錦織睦子

一出席議員

三^四名

一欠席議員

一名

四

番

館石伝蔵

三月十一日 午前十時十七分 開議

・議長(黒川佐太郎君)本日出席議員数三十四名。

こゝより昭和三十九年度第一回市議会定例会を閉会いたします。

本定例会の議案説明のため、本間市長、小出助役、新井

課長 羽山課長、伊藤課長、池田課長、高木課長、吉岡
課長、鶴沢所長、山口課長、小倉課長、多田課長、長谷川
課長、小沢課長、谷貝室長、大嶋書記長、伊東主事、
岩崎事務長、工藤教育長、干場課長、利田課長以上
の出席を求めよゝたので、中報告いたします。
こゝ際、中報告申し上げます。

本市監査委員より一月二月に実施した例月検査及
びユースホステルの監査の結果が報告をよゝた。お手元
に配付し通りであります。

会議録署名員は決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に八番議員望月照正君、
二九番議員鈴木市蔵君以上兩名を指名いたします。
こゝに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって決しました。
会期を決定を行ないます。

本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は本三
十日より三月三十日まで二十日間ということであります。
おはかりいたします。会期を二十日間と定めます。これに
異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって会期は
二十日間と決定されました。

重ねておはかりいたします。

従来の例にならいてお手元に配付いたした会議日程
表は本定例会の大体の日取りが予定であります。が、議会
運営協議会の意見により作成したものであります。

本定例会をおおむねこの会議日程表により運びますと

ともにこゝが議案の追加、議事の都合等によりまして、
この都度こゝを改めることにて大体こゝにより進行いた
したいと思いますが、こゝに中興議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中興議なしと認めます。よって夫よりた
本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。
日程第一請願書。

(書記朗読)

(二八番議員山田教平君登壇)

二八番(山田教平君)ただ今、請願書に因りまして紹介議員
といたことにて、片説明申し上げるとともに皆さんの方
なる中審議をお願いしたいと思ひます。

この検査センターの必要性につきましては、私も常々唱え
ておるところでございますが、現在、医学は非常に進歩して

参りまして、世界の水準まで持ってきております状態におきまして、私どもが南業医の状態から見ますと、ほとんど進歩はございません。例えば一つの例をひいて見ますと、手術をする場合におきまして、ほとんど現在におきましては、心電図をそうまず手術の場において使うとか、或いはテレビのようなものゝ手術に使うとか、新しい手術方法が採用をいたしますし、検査におきまして、中央検査制度になりまして世界的な一つの検査の標準まで進歩したもうになつてきております。そういう面におきまして、私ども南業医が非常に遅れた昔からの制度によりまして、ただ患者を見ておればいいのだという考え方で治療をしていゝことは、良心的でございませぬ。時代の遅れもはなはだしいというのが本来の考え方で、全国に実はこういう問題が持ち上つておるうであります。特に市町村の通り、県立病院や国立病院もで

きております。そういう国立病院、県立病院は、医師会と
かんばしい結果を生んでおりませんが、千葉県におきましても
本年度昨年度におきまして、県立病院において、やはり
もめておりますが、これは、新聞紙上でやり存じう通りで
あります。

こういう施設を依りましてオープンシステムと申しまして、医
者がほとんど自由に使用できる状態におきまして、経営して、
参りまして、そういう状態は起りません。

理想的な検査をすることが自由にできるといふ組織で
ございます。従いまして、こういう施設を利用いたしまして
一時も早く、現在の昔ながらのただ患者を見て、その
場限りの治療をすまといふことを早くかえまして、新し
い方式に持つていこうといふ考え方で検査センターの設立
を意図した次第でございます。

現在日本全国で十六カ所位で本年度もこういう施設を作りつつあります。既に皆さんも中承知かもしれません。都道府県或いは国、或いは市町村各種団体、補助を得まして作っているやでございます。

もちろんこれは一つ、団体、利益のためではございませんで、ただ検査をして参ります。検査位は、収支償いがないでございまして、赤字になるが、はつきり見えております。その点をどうしてカバーしていくかということに問題があります。

そういう意味におきまして、病院を建設すること、第二、問題になつてきたわけでございます。その病院にも、百位のベットを持ちまして、計算して参りますと、赤字にならないという計算が出来たわけでございますが、おそらく結果的には赤字になつていくのではないかという現在、見

通一ではございます。

「カー・病院の収入と」を以て検査の方をカバーして
赤字にならないように持っていくというのが、主眼でござ
います。と同時に入院患者はなるべく南業医の手
におえない重傷患者とね、手術の点で困難だという人を
なるべく収容して参りたいというのが着眼点でございます
そういう意味におきまして患者を理想的な新しい考え方
の治療を以ていって、またそういう患者を特に大学との提
携によりまして新しい時代の要求に応じた治療を以て
いこうというのが、病室を以て患者を収容するに今
申しました経済的の問題と理想的治療を以てとい
ふ二つの理由をもちまして病室を併置したわけでござ
います。

もう一つの問題は看護婦学校を作りまして、人的資

源を得るというのが目的でございます。ただ今、看護婦
にひとり人がございまして、人間的に困っておりまして、
そういう教育施設を依りまして、看護婦の分野につ
いて、人間を確保しようという主眼のもとに看護婦
学校を併設いたします。

その他に次の計画といしまして、療養所を依つても
と大きな一つの計画のもとに第二次的な考え方を
もちまして、やつていこうという考えが現在ございまして、
それはまだ決定しておりませんで、労働省の方へ援
がございまして、労働省の方から実施を約束されて
おります。

特に交通事故、そういうものや治療、むねがなくなつて固
足してしまつたような方になつたような患者を収容い
た、まして、それまほとんど今の状態をいいますと、例え

ば、交通事故でけがを——した人は、一応病院に入る
 のでございしますが、ある程度おると出さぬ——で、かたわ
 りまま残つておるといふ姿が多い。そういうものを収容した
 ——で、療養施設に入つて、——で、早く完全な体
 に持つていくという方法が考えられており、——で、第二段の
 仕事として考えておるわけでございします。

ただ今申し上げたように、本来の姿といふ——で、
 私ども、いわゆる「申業医」の姿では、——で、今後立
 派な治療はできないといふことで、——で、——で、
 ——でございします。

従つて、——で、——市におき——で、特に豊房診療所
 もございしますし、——で、——診療所もございします。で、十
 分提携いた——で、市民の利益のために十分な貢
 献を——といふが、この建設並びに病院設立の趣

旨でございます。

この資金につきましてはここに概略がございしますが、厚生省、医療公団の方の支持と後援がございまして、出発のわけでございまして、今後公団の方も新しい施設に對しては、再び来年度出すという約束になっております。現在まで出されたのは、五千万でございしますが、その他渠からも補助をいただいて、そうして一応外郭だけは、や賢の通りでござりました。今後、今より内容を充実いたしまして、医師会で考えている一つの理想に向かいまして、発足して、おる現在でございます。

皆さん、十分なる中、同情と中、理解ある中、審議をいただきまして、中、賛同をいただければ幸いでございます。医師会といふところは、決してこれが、医師会自体の利益のためには、や、それではないということと、中、認識いただきま

して、今後の市協力願えば大へんしあわせでございます。
大へんざつばくでございます。はつきりおわかりにならなかつたかもしれません。概略市説明申し上げましてお願いにかえり次ででございます。（拍手）

○一番（辻田実君）二つの点についてお伺いしたいわけでございします。

請願文の中で見ますると、総工費がどう位かあるものか、はつきりいたっておりませんので、工費の総額を知りたいと思ひます。と申ししますのは、あとの方の項に検査器械、治療設備の内容とということとで合計三千万ということとが書いてありますけれども、しかしながら前々本文の後半の方に、公費の支出並びに医療金融公庫借り入れにより約八千万円を調済し、さらに県に対して補助金を申請してある。という文面がございします。で

この文面から申しますと、八千万円もありませんが、三千万円は調達できるということでございます。私はこのほか膨大な予算がありまして、八千万円はかに補助もありません。そう関係について見当がつかえません。で、請願書の内容でいきますと、そういう面がございます。で、総額はどの位でそれについて、八千万金があつてさらに果等からどの程度ものも予算してあつて、それで、その不足金がどの位になるか、という点を明らかにしたいというふうにお伺いしたいわけでございます。

それからこれに伴うところ、熊本市においてどの程度のものか、ここに書いてある三千万程度のものをもらいたいというのか、それとも、請願に基きまして、趣旨は結構でございますし、こういうものは、運営していかなければならぬと思つておりますけれども、一か一かから、将来赤字が出て

くまというふうな懸念もあまということでございますし、釧
 路市がどう程度にしりぬぐい、穴埋めをしていくかという
 範囲が示されないものかという点についてお伺いいた
 いわけでございます。

もう一つは予算書を見ておりませんが、予算書の中に多分
 この面について予算が計上されておることでございます
 けれども、昨日も豊房の診療所にいきまわりましたら、市
 直診療場所が病院の形態をわけておりませんし、見るに
 見かぬ状態もございしますが、こういう問題をさておいてこ
 方に三千万とかいう額が提示されておりますが、こういう金を出
 すということになると趣旨はよくわかりますが、本来転倒する
 危険があるという面を心配するわけでございます。さらに住
 宅問題、学校問題ということがございますので、その面につい
 て補助範囲というものが市当局になきままに成し得る範

国という面については、医師会等と了解がついておるわということについて、市当局者の方に付け加えてお伺いしたいと思いますわね。

。二八番（山田敬宇君）ただいまは田議員から質問がございまして、私、予算書を持っておりませんが、建物だけが、一億三千万、施設費として現在施設一つつあるものが、三千万円でございします。

私が説明申し上げました看護婦学校、施設は、来年度になりましますので、これは、まだ、全然現在、予算が一億三千万、合計一億六千万の中に入っておりません。ただ今までの果、この話し合いでは、三千万円を果が補助する、という見込みに内定しております。そう、うち一千万円は、本年度予算の追加で出すというふうに内定しておるうちに聞いております。

予算関係の説明を申し上げました。

市長（本間譲君）ただ今山田さんから提案理由の説明がござい
ました。が、これにつきましても、医師会の方から何回も陳情
が参りまゝで、いろいろ考えたんですが、医師会におきまゝでは、
熊本市と安房郡に対して両方が千五百万ずつ出してくれ、こ
う要望であるわけでございます。

私も、ここでは大体むづかしい病氣は千葉大にいきま
して、やってももらってあります。が、千葉大にわかるべき医療セン
ターができる。こういう趣旨でございすから、佐民のため
にも非常にいいことだというふうに考えまゝで、町村側とも
相談いたしまして、大体一千万円を五カ年間に助成しよう
という、年に二百万程度というふうに考えまゝで、新年度の
予算案にも願ひしております。そういうところに金を出し
て豊房診療所の方はだめじゃないか。こういうお話でござ
います。が、豊房診療所の方は、今度予算で元の役

場のあたりに移転いたしまして、約五百万円かけて、やること
になつております。

一〇番(辻田実君) この請願につきましては、辻田議員が申しこ
まされたように、有意義な趣旨でございますので、賛成をいた
したいと思ひます。今市長が申さるるやうに直診診療
所や専校、住宅等について、予算の範囲でもって影響が
なければ、この問題については、予算案の問題でございます
ので、請願については、全面的に賛成いたします。

議長(黒川佐太郎君) 本請願書に対する質疑は、こゝをもつて
打ち切り、討論省略採択し、市長に送付するに、中異議あ
りませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よつて、さう決定
いたします。

日程第二 認定第一号乃至第八号 昭和三十七年度一般会計並びに特別会計決算書を一括して議題といたします。 本件は去る十二月の第四回市議会定例会におきまして特別委員会を設置し、内会中の継続審査に付さしたものであります。よってこゝより決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果について委員長報告を求めます。

一番議員 吉田勇治郎君。

(一番議員 吉田勇治郎君登壇) (拍手)

○一番 (吉田勇治郎君) 決算審査特別委員会に於ける認定第一号乃至第八号の審査の経過並びに結果について中報告申し上げます。

去る十二月二十日招集の第四回市議会定例会におきまして選任された私も決算審査特別委員会は内会中の特

別付託となり、マールに認定第一号乃至第八号、昭和三十七年
度、決算審査のため二月二十四日招集され、翌日と二日間に
亘り各会計における決算を慎重かつ、細に審査いた
し、マールに、

申し上げるまでもなく、本決算につきマールでは、既に監査委員
の手によって厳格詳細に監査が実施せられ、その正確
なることが認められておるのであります。

然し、委員会といふマールでは、議会と立場より付議され、
趣旨を体し、マールで慎重に審議を行なうてあります。
以下委員会における審議の概要について申し上げたいと存
じます。

まず、一般会計歳出の部より質疑に入り、マールに、市役所
費中連絡委員報酬と連絡委員事務委託費の支給
方法について、どう質問に対し、報酬は個人に直接払う

額でございます。大体一世帯当り年額百円の割で支拂
してあり事務委託費は町内会あてに委託料として支
払っており、限度額として年千円から三万円以内世帯割
人口その区域の広狭等勘案の上、支給しているという答
弁があります。

同じく市役所費中、全国果下市長会費というものがあ
るが、この中に交際費的なものが含まれていないか。尚、全議
や都度特別会費というような形で割当がくるのではない
かと質問に対し、この会費というものは一つは予算を組
み、それによって各会議計画を執行し、負担しているわけ
であります。特別会費というのは、外部団体などに寄付や
要請等で予算外の負担をしなければ予算が足りない
ということでは企画されたものと思う。なお、この会費には、
交際費的な経費は含まれていない旨の答弁がありました。

消防費におきまして、消防取員福利厚生業務委託金と消防協会館山支部交付金の内容について説明願いたいという質問に対し、委嘱託金は消防署員、全員をもつて署友会というものを構成し、取員相互の福利、厚生の業務を行なつてゐる。また消防協会館山支部は、消防団員全員と署員が協会員になっており、危険物関係或いは消防洗練等を行ない、消防の仕事は側面から援助する働きをやつてゐる団体であり、事務局は消防本部に設けてある旨の答弁がなされた。

次に土木費におきまして、年間の砂利の使用量、それによつて、円滑に砂利を配分することができたか、また市道の舗装、修理状況等についてお伺いしたいという質問に対し、平均いたしまして、土地産の砂利が一立方、六百五十円で約八三〇〇立方メートル買つてやつて参りました。

地産の砂利が不足して参りまして、だんだん値上りをして
し、現在平久里の碎石を中心にとして使用している。

なお、三十七年度は一メートル当り十二円程度見ておられ
たが、県外産、或いは平久里の碎石等を用いた場合、
一メートル五十円見当になり、それでも十分とはいえない状態
である。

現在、市道は、総延長四〇キロありまして、そのうち巾員セメー
ル五〇以上のものが約八、〇〇〇メートル、五メートル五〇以上の
ものが四二、〇〇〇メートル、四メートル五〇以上が一、〇〇〇メートル、
三メートル六〇以上が四三、〇〇〇メートル、三メートル以上が二〇、八
メートル、こういう内訳でございます。ところで、三十八年度現在
で約三%にあたる十二キロの舗装が完成しておりますが、今
後も毎年二、〇〇〇メートル位ずつ簡易舗装も含めて延ばし
ていきたい。除々に修理を加えていきたいと考えています旨

の答弁がありまして、本件につきましては、砂利の払底に伴い
できるだけ簡易舗装へ切りかえていくよう要望いたしました
次に教育費中、不用額が四百五十七万八千六百六十五円あり
ますが、この原因について大きなものだけ教えてもらいたい。
なお、市営プールについて、収支に大分アンバランスが見らる
が、今後、根本的の運営方針について検討する意思あり
り、さらに青少年健全育成のために部落会或いは子
供会等に対する補助金が出ているが、ある子供会には補
助するが、ある部落会にないという実情がある。こういう点
について不明確だという声があるが、これには何か基準があ
るのか、ただ事務局の判断によるものなのかという質問に
対しまして、第一点、多額の不用額を出した大きな原因は
館高々工業科設置に伴う校地の拡張を当初予定し
たのでありますが、種々都合でまだ買収できないものが

ありまして、その経費として三百四十万七千円が残った次第で
あります。こゝが大きなものでございます。

第三点の市営プールでございしますが、三十万近くが赤字を
出してあります。

現在、使用料の値上げということを考えており、今後、彈正と
して、シーズンに水がきたなくて、それをかえるのに夜間に三日位か
かるという館山の水の問題と関連がございますが、こういう不便もあ
つて、将来浄化装置をしていきたい旨の答弁があつた。

次う子供会等の助成についてでございますが、この子供会等
に對しましては、幾ら何でも助成はしてやりたいという方が当
局の方針ですが、会う活動に格差がございまして、思ひ
つきで、その都度要求されるということではなく、会う活動に
事業計画に基いて多少なりとも助成しているのが、現状で
遺憾ながら全部に出せないという答弁がありました。

教育は、学校教育と社会教育の二本柱からなっているが、学校教育では各学校とも、需用費の捻出に苦慮している。それに反して、これだけ不用額を生じたということは、きこくに遺憾であり、再配分の方法を検討さねたい。また社会教育においても二百十八万余円、少ない予算に対して、十五万余円の不用額を出しており、少ないといわねておる教育予算においても、このような結果を生んだということは、予算の執行がよかつたのではないか。この点について反省し、もっと積極的に教育に携わってもらいたいという強い要望をいたし、また次に第六款社会及び労働施設費中、失業対策事業費におきまして、五百五十万の予算額に対して、百万余の不用額を出しているが、これはいかなる理由によるものか。さらに建設課におけるところの道路工事と失対による道路工事との区別をいかにつけておるかという質問に対して、この不用

額を出した原因でございますが、当初、適格者の数が四十
五、六名であつて、一日平均十八名程度使う予定であつたが、
一四・七人分の査定をさしたもので、失業者の数が減りま
したので、補修等の事業を多少割愛した。その
ために百万円の不用額を出したわけでございます。しかし、
改良工事等は予定通り全部完了しております。

次に失対事業と一般道路の関係でございますが、失対
事業というものは、国庫補助金がございます。負担金
が五分の一で済むということで、工事費の四割はかかる
ところをやっておりますが、これは労働者の配分事業で
ございまして、事業費の五〇％以上は労力費を要する
という限度があり、申請して認証を受けなければ失対
事業としてやることはできない旨の答弁があり、また、
次に厚生援護費中、水害塔建設について、百二十万の

寄付金で収入亦額は、百万円である。二十万というものは、
収入に入らるゝに別途でやらねばならぬ。さらに見積りには
入っていないか、という駒犬、敷石等、当然忠霊塔の附属物で
あり、当然建設費に含まれるべきものと思うが、別に五十万の
寄付によつて行われている。こゝは議会で承認した数字を大體
に上回るといふことになり、疑問があるが、こういうふうなことは、
予算執行上、非常に不明確に感ぜられる。この点に
ついて、内容を詳しく中説明願いたいとの質問に対し、
当初百万円の寄付により、忠霊塔の建設を以てく
れ、ということから端を発し、以て受け入れた。その後におき
まゝで、なほ、二十万円の寄付を受け、以て百二十万の寄付を
いたしたいわけでございます。なほ、ほかに燈籠、駒犬、敷
石、というふうなものを遺族会が、境内に作りまして、現物
で、寄付願つたといふことで、それが、五十万といふふうにお考

えいただきたいと思ひます。

なお、この五十万の燈籠とか、駒犬というものは、当然必要なものでございすが、建設当時予算の關係等で設計の中に入らなかつたというのが事實でありますので、やはり承願いたひ旨の答弁がございました。

委員会といたしましては、この種の問題について入札の條に当然本工事に含まれるべきものが含まれずに別途寄付金によつてまかなはれるということは、議會の承認事項の面からいつてもここに遺憾である。

また特殊なもので隨意に契約はやむを得なかつたかもしれないが、やはり誤解を招く恐れもあるので、競争入札をやるべきであつて、今後、こういう事業については、十分注意を要するよう、強く要望いたしまして。

次に保健衛生費におきまして、一尿処理施設費で予算

現額に対して支出済額がかなり下回つておもうですが、こ
ういう予算の執行状況からいくと、現在、いろいろ調子が
悪いというような批判があるように、手を抜いたと見られても
仕方がないのですけれども、その理由をお伺いしたい。また電話
架設費が七十五万三千円とあり、電話債券八万円とあつて
随分高いように思ふが、この内容についても、お説明願いたい
と、質問に対して処理施設につきまゝでは、完成後、ガス
漏れ等では、いろいろ迷惑をわけてゐることをおわび申し上げ
ます。現在、そうした場合を完全に補修して、ガス圧、水圧
等の試験も実施いたし、完全なりという報告を受けた
わけでございます。近く、操業を開始し、投入後も精
密に立会を実施して、本操業に入りたいと思つておりま
すので、申し承願したい旨を、弁明が、ありました。

電話架設の件ですが、処理場は、布良局管内でござい

まして、直通ではございませんで、熊山町管内に入れた方が便利だということで、普通より相当高くなった旨の説明があった。

次に清掃費中、灰リ河畔のゴミ焼場に要する経費、火災等、発生防除、焼却の際の消毒等、今後ゴミ処理の点についてはどうような対策のもとに、今後の計画を立てておられるかという質問に対して、まして焼却には特別の費用は、おめつていないが、ただ焼却管理人を一人置いてゴミをマツチで焼くという原始的な方法でやっておりますが、三十九年度に焼却炉設置のため、土地購入費を計上し、できれば四十年度に実施する段階に達して参りたい。なお、その間、消毒薬による火災等の発生を防除、また、重油を使って乾燥したときは、わりでむく、いつでも、多くのゴミを焼却、出来るよう計画している旨、答弁がありました。

次に産業経済費中農村関係で麦作転換補助金百四十
十三万六千円の内容と、水産関係において水産増殖事業
負担金九十三万二千円性格について商工費の小規模事
業指導補助金五十万はどういうふうに使われておるか。

観光費において当初予算が百七十三万余円で追加更正
予算が二倍以上になつてゐるが、こんな大きな追加を
しないで当初予算に組めなかつたのかと質問に対し
て、第一点々麦作転換補助金は枝草の造成のための
事業でございましてグループ単位に助成するものであり
まして、これは九重地区に対するものであります。

百三十四万六千円は総事業費で果かり、六十万円近代化
施設補助として参つており、受益者から七十四万余円の
寄付を受け入れます。市は素通りでやつてゐるものでござい
ます。

第二点の水産増殖の補助金でございますが、水産事業費のうち八割が渠一割を市で補助して布良、相模、伊予、若砥、爆破等を行なっております。

次の小規模事業の補助金でございますが、これは市内の商店経営者や接客の講習、帳簿の記載の講習、そういう指導の経費が大半でございます。

第四点の観光費の追加更正が多くなった理由でございますが、これは、国定公園整備事業関係の予算が市の予算が組まいる時期にどう程度か規模になるか皆目わからなかったというのが、三十七年度当初の算定でありまして、追加更正予算でやらざるを得なかった旨の答弁がありました。

次に歳入公債費におきまして現在市の公債が総額で幾らあるか、また地方自治体における総予算額に対する公債

費の適正なつり合ひはどの程度が合理的であるか、どう
質問に對し、公債の現在額は一億六千五百八十万円
であり、公債の限度額は、現年度の一般財源に對す
る平均償還額が二〇%から三〇%の範囲内まで許可す
るということである。四百万円程度が限度である旨、答弁が
あつた。

次に林業に對し、市税において、収入未済額が千六百四十二
万六千四百一十一円ございしますが、この内訳と、なお、欠損額が百
万余円ございますけれども、これも合わせてどういふ状況に
なっているか、この質問に對し、千六百四十二万円、収入未済
額の内訳は、現年度分で七百三十三万九千円、滞納繰越
分で九百八万一千円となつており、その収入状況は、現年度分
におきましては、九六・三五%、滞納繰越分につきましては
二八・七二%という収入割合になつております。

現在、状況も持ちまして、最終的に申し上げますと、九二%
の収入状況でございます。なお、その後これは、一月末現在で
ございすが、現年度から収入は、三百六十二万二千円余、従
いまして、七百三十三万九千円に對し、未納額は、三百六十九
万六千円であり、これも、四九・四九%の収入割合で
ございます。

三十六年度以前、滞納繰越が九百八万一千円に對しま
して、現在、二百四十四万八千円収入より、未納額六百六十三万
二千円、この徴収率、二六・六九%になっております。

次に、損額の百四万六千三百三十円でございますが、件数に
して二二・六三件でございます。この内訳は、市民税三千九
百千円、固定資産税五千二百四十千円、軽自動車、一万八十
円、その他となっております。

市といましては、差押え、等、手段を講じてござい

大損処分を出さないうように考えてやつておりますが、やむなく
これだけの不納欠損額をふいた旨答弁がございました。

次に寄付金中、教育寄附金について、従来、総事業費に
ついて三分の一、或いは、二分の一という率をもって寄付の収
納を行なっているが、これでは、地域によつて、相当アンバランス
があり、負担能力のないところでは、学校は、建たないという
実情にある。従つて、一生徒、或いは一世帯の負担というものを
統一していくような方法で、予算的措置をはかつていくべき
だと思ふが、これに対する当局の見解を、とう質問に對し
まして、教育の機会均等からいつて、地域格差の問題
を考慮に入れているわけならば、よいと思ふ。また、そのよう
に努力しておりますが、一か一かは、現段階では、普通
教室すら十分でなく、それ以外、建物については、地元の理
解、協力を待つ以外にないで、あります。現在、考え

では、二分の一を軽減するところまで持つていけない現状で
ございます。なお、地域によつて一世帯の負担の軽重が
あることは事実でございます。これも将来の課題とし
て研究していきたい旨の答弁がありました。

次に特別会計国民健康保険費中、保険料において、八百
五十三万の膨大な未済額があるが、これについて、将来の
見通し、現在までの収入状況、それから不納欠損額九十
二万八千円、これは時効完成によるものであるが、ここに至
るまでの当局の処置、どのように努力されたか、どう質問
に對して、一月三十一日現在の実績を申し上げますと、
三十六年度は滞納繰越金に對して九・九パーセントの収入が
なつた。それが七年度に對して一四・二パーセント、現年度分
に對しては六三・六パーセント、前年度でありましたものが本年
度は六八・六パーセントというふうに徴収率は上昇しております。

大損額につきましても差押え等、担当強硬手段に出てお
すが料と税の考え方の傳いとしすか、どうしても、保険
料の方を軽く見るということから、料を税に改正する計画も
しておまわりでございます。それと同時に現在、国保協力組
合が一八五組合結成されておりますが、こゝをさらに活用
拡大して徴収率の向上を期していただきたい旨の答弁が
ありまうた。

と畜場会計につきましても、^翌年度繰り越しがあつて黒
字が出ておまうが、歳入を見ると、三百万円、市債があり
ますので、実質的にはまだ赤字だという状態ではないか
と思つたが、今後まだどういう施設をし、今後運営の方
針についての質問に對しまして、現在、と場はまだ、初
歩に近いものでございまして、需要が増加する状況にらみ
合せて、今後、と場の屋舎の改造、浄化槽の設備等を

二 負債の整理
準備にあまり無理のないように年次計画でもって整備して
参りたいという答弁があった。

休養施設会計におきまして経費費中、原材料は、大
体市内から購入していると思うが、どうか。また公債費にお
いて償還期間は、何年か、最後年度は、何年かという質
問に対して、原材料は市内の業者から大体入ってお
る。公債の償還期間は、十五年で、その最終年度は、五
十年二月になる旨の答弁があった。

チス・ホステル会計におきまして、県補助金百三十万円あ
ります。この補助金をもらったから、収支がつかないと思
うが、あまり成績がよくない。県から委託された場合
これは市が負担すべきものか。県が負担するものかという質問
に対して、委託経費でございまして、経費で生じた赤字
につきましては、常に県が補償するということにはなつて

おりません。またこの補助金もこちらから再三お願いいたしても将来必ずくるといふうに確約はいたしてありません。市としても、そのうに了解しておりますが多う赤字位は市でもつてやうていきたいというふうに考えている旨の答弁がございました。

その他、決算書う各費目にわたり慎重かつ活発な発言がございました。

以上、委員会におきます審査の概要を申し上げたであります。本委員会といたしましては、決算審査意見書にもいわれております通り、本決算書を総体的に見ますと、各種事業は予算を厳決り趣旨にそつておおむね、その目的を達成し得たことを認めるものであります。

今後市当局におかれましては、財源の確保と経費の節減に努められ、合せて予算の合理的な執行に

よって市政政の健全を期し、もって市民福祉の向上を図らねばならないことを強く要望いたし、また、

本委員会は付託を受けました認定第一号乃至第八号昭和三十七年度決算に対して、その正確なることを認め、これを認定することに決定いたしました。

ここに決算審査特別委員会における審議の経緯並びに結果をご報告申し上げた次第でございます。(拍手)
議長(黒川左太郎君)委員長ご報告は以上で終了しました。

委員長報告に対する質疑ごございませんか。なしと認めます。おはかりいたします。以上をもって質疑を打ち切り討論者略一括して採決いたしますことに、中異議ありませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川左太郎君)中異議なしと認めます。よって、これより採決いたします。

認定第一号乃至第八号昭和三十七年度一般会計並びに特別会計決算書は、決算審査特別委員会委員長より報告通り認定と決めますことに、中異議ありませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって認定と決めます。休憩いたします。

午後零時十五分 休憩

午後一時五十二分 再開

議長(黒川佐太郎君)午後の出席議員数三十三名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

只今まで送付があり、こした議案第四号乃至第六十五号を一括して議題といたします。

おはかりいたします。この際各議案の朗読はこれを省略することに申異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川住太郎君)市異議なしと認めます。よって決一はした。日程第三、こゝより昭和三十九年度における施政方針並びに議案の提案理由の説明を求めます。

(市長本間謙君登壇)(拍手)

市長(本間謙君)こゝより昭和三十九年度施政方針並びに提案理由を説明いたします。

本日ここに昭和三十九年三月定例市議会を招集いたし、て、昭和三十九年度施政の根本幹をなす予算及びこれに関連する諸案件のご審議を仰ずらぬことといたし、ま

市長就任初年度より昭和三十八年度も漸く終りを告げ

さうしてありますが、この間万事不行届きにもかかわりませ
ず、議員各位におかれましては、積極的なご協力を賜わりま
して、諸懸案のスムーズな解決をみまいた事に対して、深
く感謝と敬意を表する次第でございます。

今後もう一層のご協力賜わりますようお願い申し上げます。
さて、本日は、会議に先立ちまして、昭和三十九年度における
施政方針並びに諸議案の提案理由についてご説明
申し上げあわせてご挨拶申し述べたいと存じます。

昭和三十九年度予算編成の基本方針といえましては、
市長就任に際し、お約束申し上げました「産業の振興」
「観光施設の整備充実」「教育施設の整備拡充」とそ
ろ「内容充実」の三点を根幹といえまして、さらには、国の指
向する地方財政計画に準拠し、且つ地域的要請に
応えるとともに将来にわたる建設計画の下に当面する

諸施策を強力且つ効果的に推進することをもってその基本方針といたいのであります。

即ち第一点の産業の振興対策といたいことは、その基本的なものといたいことで本市のおおいては、地域的、社会的諸条件の中で最も重点となるべきものは、その経済効果の最も高いものでなければならぬと考えるものであります。が、然もその等が都市計画を中心としてあらゆる部門と関連し、計画的に行われなければ市として強力な発展はあり得ないとも考えるものであります。

そのような見地から先般来、担当部門をして調査研究をいたさせておりますが、何分にも広範範囲に亘る高度の調査のため、本予算案提出時にその報告を得ることが出来なかったことは、遺憾と存しております。本月末、その報告をすま旨連絡がおりましたので、報告を得次第

各位にも十分ご検討願つて次へ機会にその措置をいたす
所存でございます。

長期計画の全ばうは暫くおくといたしまして、当面する産
業振興策といたしまして、農林水産関係においては、経済一
般の飛躍的成長の過程においてその犠牲を最も大きく負
うのが農林水産業であります。本市就業人口の約五十％
を占める農林水産業が他産業の構造的変化に対処し、
それ等と均衡を保ちつつ健全に伸びていく為の施策が
行われなければならぬと考え、それにより計画、指導
及び助成策を考慮いたしました。

先づ農業部門について申しあげますと、農業基本法に係
る近代化の積極的な推進を計るべく要の措置を講ずる
とともに特に本年度は構造改善三ヶ年計画の初年度
事業といたしまして、安布重、山本地区に国果の協力

もとに三千二百万円を投じて、基礎整備を行うことと
いたしました。

また、近時農業の飛躍的發展に対処するには、あまり
にも規模が小さく、弱い現農協があり方に思いをいたし、
経営規模の拡大、ひいては農家経済の統合的且つ恒久
的發展体制の確立を目的として、農協の統合を積極
的に推進してまいりたいと考えております。

幸い農協関係者より深い理解と献身的努力により、
日夜、その準備が進められ、合併も間近いものと思われ
ます。これは、本市農業の発展のための画期的事業と
言ふことにご同慶に堪えないところであります。一日も早く
合併が実現しますよう努力いたしたいと考えております。
水産部門につきましても、この部門においても農林同様
その近代化が強く要望されておるところであります。

そのため、岩爆・魚礁の投下、魚港ならびに施設の整備、その他漁業経営の不安定性、委節性等の克服のため、或海増殖、蓄養並びに漁場の調査等委託事業について大々所要の措置を講じ、その近代化の促進を計りよう。

又、商工業部門につきましても、現在本市の立地条件を廻る商工行政につきましても、各種の構想がある訳でございますが、より施策の中心を占めます。

よな、商工会議所であらうかと存じます。

商工会議所に対する事業助成並びに委託事業に重点を置いて遺憾のないよう措置していきたいと考えております。

さらに、他産業と密接な関係において、高い次元からそのありべき姿に意を用いていきたいとも考えるものであります。

不燃性建物による商店街形成等についてもその具体策

の検討を進めさせており、その実現に努力していきなにと考
えております。

又本年度は中小企業預託融資につきましても、その額を
七百万円に増額いたし、ましてその円滑な運営を期してあり
ます。

さらに小額ではありますが、鉄工業関係の助成、商店連合
会の企画する購売促進、たけな事業並びに果と協力し
て行う商店街診断事業について、助成策を講じ、市
が直接行うもう商工会議所の企画する諸施策と両々相俟
つて発展策を講じていきたいと考えております。

さらに関連いたし、まして企業誘致でございしますが、こゝ度
小企業であります。その進出をみることと、かり結果により
ましては、続いて同系統が進出を計画しており、明かすい見通
しであります。こゝを契機に一段と強かに進めたいと考

えるものであります。

第三点といたしきりでは、観光施設の整備とそれ対策でございしますが、そう考え方といたしきりて本市の予算規模からいたしきりて大型化した観光施設に全面的に市費を投じていくということは、極めて至難であるといふことでございます。

即ち民間の大資本の導入によらなければ大いなる開発も望めないのではなからうかと考えもつてございます。

本市の観光的要素として、内、外房にまたがる海岸環境な気候風土、関東の南端に位する地位、そこにはない自然美、それ等を廻る有料道路、着工国民休暇村事業の具体化、果における各種事業の具体化等、その条件も揃いつつあります時、大いに資本導入の素地が出来たのではないかと考えております。

現在までもこのことについては、あらゆる機会をとらえて努力して参つたのであります。本年はさらに一段と努力を傾注していきなにと考えておる次第であります。又一方におきましては、現在まで策定さるゝた海岸施設、城山の整備等については、夫々配慮いたし遺憾のないよう措置して参りたいと存じております。

関連いたしまして都市計画事業並びに道路整備事業等につきましても、都市形成に必要な諸事業の計画実施を予定いたした次第であります。

第三点といたしまして、教育施設の整備拡充と内容充実についてでございますが、その方針といたしまして特に学力向上、技術、保健体育の振興等を重点に施設内容の整備充実を図りたいと考えるものでございます。すなわち、学力向上については、本年もシンクロックス

を購入する事になっておりますが、これによりて全市の小中学校に全部備付を了し、まして、その効果は大いに期待出来ることを確信いたしております。

また教師の素質向上についても深く関心を持つものであります。各種の研修について本年は市長といたしまして特に配慮をいたし、これ又、その効果を期待いたしております。一方、校舎の整備につきましては、神戸小學校校舎、四中体育館、一中技術家庭科室の新築を計画して、いふ訳でございますが、特に神戸小學校は鉄筋二階建ていたしまして十二教室三百七十余坪を二十年継続で建設しようとするものであり、本市においては、待望の鉄筋校舎が実現する訳でございます。

また四中体育館についても、将来の体育指導を考慮いたしまして、その基準を超えて二百坪の鉄骨の近

代建物とする予定であります。

このことによつて一つは危険校舎から解放さる一つは長らく不備であつた体育設備の充足をみて大いにその成果を期待してゐるものであります。

また館山高校の工業課程の増設事業も本年をもちて第三年次を迎へ建築については一応終了する事になつたのでございますが、こゝが、果立移築については、関係方面に強力に接衝を続けておりますが、その見通しも極めて明かまいで、各位におかれましても、一段々ご協力をお願いする次第でございます。

その他、小中学校の父兄負担の軽減、社会教育、体育関係についても、夫々配慮いたし、遺憾のないよう措置いたしまして。

尚、市民より待望されております会館建設については、体

育関係と両面、機能を持つ建物を通じて将来に建設すべく、
その為、調査費を本年度計上いたし、そしてその実現に努力
していただきたいと考えております。

その他民生関係におきましては、前年度に引き続き、生活
保護費引上げに伴う最低生活の向上、が図られており
ますが、こゝらの世帯に対しては、社会状況の推移に
み民生委員等関係諸機関の協力により一層自立
更正の実をあげ、被保護世帯の低減に努めて参りた
いと存じます。

又住宅事情緩和のため本年二十二戸の市営住宅
の建設を計画しておりますが、本年度をもって五ヶ年
計画の最終年次にあたる訳で本年度は想を新らたに
いたし、考えていきたいと存じております。

次に国民健康保険事業でございますが、毎年のように医

療費の増高する中で給付内容の改善に努めて参
りまいだが、本年度はさらに本年一月から全被保険者に対
する七割給付を実施するため措置を講じました。
この給付拡大によって全被保険者が全疾病について一
部負担が三割に減少をみる事であります。その成果は
期して待つべきものがあると確信いたしております。

又、従来の豊后診療所は、地域並びに環境からいっ
して、適当ではないので、今回今迄出張所として使用して
おりました旧役場跡に移転改築いたしまして、その効
率を高めていきたいと考えております。

その他本年度従来保険料として徴収してまいりましたも
のを事務合理化に関連いたし併せて、その債権保全
を図る意味から保険税に改め国保事業の金支を期
してまいります。

次に衛生関係につきまゝでは、懸案の大事業でありまゝた。
し尿処理場が昨年度をもちまゝで、漸く完成をみるにいたり
まゝたで関連いたるまゝで、じんあ焼却炉の建設、上水道
の敷設を計画いたるまゝでありますが、この種事業は、極め
て重要な準備と巨額の予算を必要といたるまゝで、
焼却炉については、土地購入費を予算化し、まづ土地の
確保を計り水道につきまゝでは、長期間に亘る計画と
一部事務組合設立等の関係もございまして、本年度
以降、その実現を図るよう努力いたるまゝで、所有でござ
います。

次に消防関係でございしますが、市民財産保全の金をと
期し、新鋭ポンプ車を購入、水利施設の拡充等、消防体
制の強化に努めるとともに、火災予防体制の啓発に遺憾
のないよう努力いたるまゝで、存じます。

次にこの等の諸事業の執行に關し、ましてその効率率をより高め、より合理的に遂行するため、一大機構改革をいたし、夫々の職能理論を可能な限り追求し、もつて市民の公僕として責任ある行政をうてまいらるため、措置を講じました。

以上の重要施策の執行に關し、之を織りにしまし、予算の大綱について、今うべく申し述べてみたいと存じます。

即ち前述の方針を根幹として、可能な限り、財源を組み、予算総額における前年対比は九千五百六十万円余、十七%の増となり、その総額は六億五千六百三十万円余となり、ものであります。

このことは、国において策定いたし、また地方財政計画に、より所要額が十九%増となつて、いる現状よりみて、国家

予算に準拠した極めて健全なものと信ずるものであります。
先づ、歳入の主格をなす市税は、二億三千五百四十七万円を
計上いたしております。これは、調定見込に對し、九十四・三%、徴
収を見込んだものであり、予算総額に對し、構成比率
三十九・六%でございます。昨年度に比し、約二千三百余万
円の増となりますが、これは自然増によるものであります。

このうち、固定資産税については、今までは標準税率一・〇
から一・四を超えて、一・〇から一・五を課税しており、この
を標準一・〇から一・四とし、都市計画税において、一・〇から
一・一であったものを一・〇から一・二を課税することといたし
ました。このことは、県下各市において、熊本市のみがそのよう
に課税していたものを本年度各市に同調しようとする
ものでございます。その結果、市全体といたしまして、百
余万円の減税となる訳でございます。然し乍ら個々に

ついては、評価替の關係で多少の凸凹はありますが、ほとんど変りはないことになっております。

然し一方地方自治体といつて、財政構造という点から言うと、今一段の増大がござります。

次いで、地方交付税一億五千万円で昨年度に比し、約二千万円の増加をみよ。ほか、その他、歳入全般にわたり、増額計上いたしました。その結果、一般財源において、四億六千三百五十六万余円、特定財源において、一億九千二百七十三万余円となり、これが前年対比におきまして、一般財源において五千余万、特定財源において四千五百余万円の夫々増となる訳であります。

一方歳出に關しましては、一応性質別経費に分類いたしますと、人件費 二億三千八百二十二万円、構設費率 三六%

物件費 七千七百七十六万円、

十一%

維持補修費 一千三百三十三万円

二%

扶助及び補助費 八千四百五十万円

十三%

建設事業費 二億一千一百四十六万円

三十二%

その他経費 三千七百四十七万円

六%

という結果になり、まして、夫々昨年と比較いたるに、

維持補修費においては、分類の変更による九百余万円の減を

み、他は、人件費において二千三百七十一万円

物件費において一千百八十六万円

扶助費補助費において二千三百三十一万円

建設事業費において、四千百十五万円

その他において、四百九十六万円

の増と、昨年度においては、人件費の延び、極めて大きかつたものであります。が、本年度においては、建設事業費の延びが他を離して目立っておりますことは、特筆大書すべきこと

とであらうと存じます。

この事業費をさらに申し上げますならば、

農林水産面の拡充について 四千八百万円

保健衛生面の拡充について 八百五十四万円

商工業面の拡充について 八百四十五万円

土木費面の拡充について 四千百十一万円

消防費面の拡充について 八百六十三万円

教育面の拡充について 七千九百三十九万円

その他施設、拡充について 一千七百四十三万円

以上の歳入における事業費の骨格となります。であります。

その他特別会計におきまして、

公益質屋 三百七十六万八千円

国 保 一億九百五十九万七千円

と 場 百九十九万一千円

簡易水道

二百六十二万四千円

休養施設

二千三百三十九万八千円

ユスホス元

三百三十九万六千円

上水道

三百三十五万二千円

合計いたしまして、一億四千五百八十一万六千円。

を夫々計上いたしまして、その内公益實屋を除きましては、
づいも健全な運営を示しており、本年も夫々において充分
の成果をあげてくつもの確信いたしております。

ただ、公益實屋につきましては、結果的に例年七八十万円程
度の繰入も必要としており、社会、状態、勢力の推移とそれ
利用状況からして、再検討を加うべき時期にあるのではない
かと考えておる次第であります。このことについては、関係方
面と十分なる検討を加え、それにかりるべき機構の整い
次第、廃止したいと考えております。

以上特別一般両会計の予算総額は、八億二百万円と
 前年度当初予算額との比較は、約九千五百余万
 円の増となります。

その他、今回提案いたします議案といたしまして、

自治法改正に伴い条例整備するもの 十七件

給与引上げに伴うもの 十件

事務改善に伴うもの 二件

その他 十九件

昭和三十八年度各会計の最終追加更正予算 七件
 であります。

以上施政方針並びに予算の大綱について申し述べましたが、
 わが館山市にとりましても、本年も多事多難な年であり、
 幾多の問題が山積いたしております。

内には職能的に行政理論追求の態勢が整い外には

將來あるべきビジョンが打出さるようとしており、市民が新たな歴史的新時代を創造するための絶好の機会でもあるといえます。

こう釈にありぬは、大いなるフイトを燃し、市民の光頭について、この政治的課題に挑戦したいと存じます。

市議会が積極的な協力をお願ひするものであります。なお各議案の詳細に關し、ミーテは上程のつど、ご質問に応じ、ミーテにお答え申し上げたいと存じます。うで、なにとぞ十分なるご審議の上、ご可決下さいますようお願いいたします。

(拍手)

議長(黒川佐太郎君)以上で市長の施政方針並びに議案の説明を終りました。

おはかりいたします。

来る二十一日皇太子殿下が本市におでまりになさるという

ことで、渠から市当局に打ち合ひせにくるようという
ことでございまして、市長、助役はいけませんか。で、秘書
課長がいふことになりまして、議案第二十四号を先議
していただきたいということでございます。

これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

や異議なしと認めます。それでは議案第二十四号を朗読
いただきます。

(書記朗読)

議案第二十四号 館山市取置給与条例の一部を改正する
条例の制定について。

秘書課長(小倉澄男君) 議案第二十四号について、説明申し
上げます。

本条例の改正は、昨年、人事院勧告に基きまして、通勤手当並びに期末手当並びに給料表の全面的な改正に基きまして、館山市の取組の給与条例を改正するための議案でございます。

本文につきまして逐次市説明申し上げたいと思っております。通勤手当が只今まで七百五十円であったのを限度額にしないというが、第八条例第二項中で改正でございます。

ただ今まで自転車というものを使っておいた者に対して二百円を認めておいたのでございますが、今回は原動機付自転車三百五十円というふうに改正したのが、第八条例の改正でございます。次の第十四条例第二項及び第三項を削るということは、館山市の給与条例の中にあります第十四条の中に休日直手当に關しまして第十四条の二項、三項によっておりますので、これを削りまして、新たに実は給与改定にはなかつたのでございますが、館

山市に現在、宿日直手当が國より下回りつてゐるということでありましたので、この際、一々も給与条例はすべてが國家公務員に準じて行なひつてゐるという趣旨に基きまして、國家公務員と同額額の宿日直手当をここに提案いたした次第でございます。

なおその終りにございます前項の勤務は「第十條、第十一條及び第十二條の勤務は含まれない」ということは、この宿日直手当は超勤手当、夜勤手当、休日給には含まれないのだということでございます。

第十五条でございますが人事院の勧告によりまして昨年度は期末手当を支給する期限三月十五日、十二月十五日を期限といつたもので、この前一カ月にやめた者でも期末手当がいただけるという規定が追加されたのでありますがさらに本年度は病気で休取中の者にも支給できま

のだという項が付け加えられましたので、十五条に改正した
次でございす。なお、これは休取中の取員はあく
までも病気で休取中の取員でありまして、そこに「取員
(第十五条第三項の適用を要する取員並びに規則で
定める取員を除く。）」と規定してありますが、刑事事件
者等には支給されないという規定でございす。

次に三項の改正でございすが、これは館山市のただ今まで
の給与条例に規定してありますが、「基本給」という言葉
が使われていたでございすが、このたび、期末手当がいりゆる
休取者に支給されるということになりますと、「基本給」とい
う言葉を使いますと、妥当でないので、「給与の金額」という
言葉上、改正をするために改めた次でございす。

次に別表第一が、このたび人事院勧告に基きまして、国家公
務員の給料表を八等級でございすが、館山市は下から

五等級取っておりすも、同率に改正した額でございます。
次に附則のや説明を申し上げす。「この条例は公布の日
から施行し、三十八年十月一日から適用す」ということでご
ざいます。

次に期末手当は、昨年、十二月に特別条例を出して二十
九割を支給いたしておりました。この十月一日から適
用するということになりますと、二十九割というものがなく
なつてしまいます。で、十五条の期末手当の支給の割
合の改正の部分は「昭和三十九年一月一日から施行す
る」ということをうたつております。なおもう一つは宿
日直手当を改正したわけでございますが、これはあくまで
でも「四月一日から施行する」といふことでございます。
第十四条の二の改正部分は「三十九年四月一日から施行
する」と二項、三項でございます。切りかえの技術的部

でございしますが、簡単に申し上げますと、昨年度より給与ベース
の改定は各等級別に一号から十号、一号から十七号と創
えて申し上げますと、三等級には一号から十八号があるで
ございしますが、それが十五号になったということは昇給率の
短縮をはねたということとございまして、そのため三号
の間びきをした。各個人より昇給率、間差額がふえて
きた。そういう措置をこれから五等級各等級にのりこめて
間びきをいたしまして、そうときに一番間びきをきめた。そう
次の中から来年度から損をするわけとございしますので、
その場合は、その次の中から、昨年三カ月の期間短縮
をいたしまして、その後昇給期間を三ヶ月短縮したわけで
あります。これは三号間びきをしたのだ。二号目人をも
三ヶ月短縮する。これは来年度給与の改定がなされる
ならば、その次の三号目の人から三ヶ月短縮するということ

が推定されていますが、そのような昇給の面差の上から平等を期するため三ヶ月の短縮をこの条例の一番最後に附則別表一等級が一号から十九号まで、二等級が五から十九、三等級が九から十九、四等級が十二号から十九号まで、これは昨年のベース改定を以てしたときに古い給料の号給でほとんどございましたが、その人につきまゝで三ヶ月の短縮をすまうだという規則でございます。四号がそれでございます。

五号、規則への委任、附則第二項から前項までに定めるものについては、この条例の施行に關し必要な事項は規則で定める。通勤手当支給規則、期末手当支給規則によつてこれを制定したということでございます。

六号、給与のうち払い、今までの給料はうち払いとして認めらうだということでございます。

七号、これは先ほど申し上げました「給与の全額」というふうに
改正したためにこれは暫定手当を支給するたために給与の中
に扶養手当、暫定手当を含むのだというための改正でござ
います。「給与の全額」というふうになおしたために今までは
給与条例の附則によりますすもを改正したものでございます
（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中質疑なしと認めます。
本案はさうして質疑を打ち切り討論省略原案通り可決す
るに中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よって本案は原案
通り可決さうございます。

議案第ナ五号乃至第ニナ三号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第十五号

館山市文化財保護条例の一部を改正する条例
の制定について

議案第十六号

館山市図書館条例の一部を改正する条例の制
定について

議案第十七号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関
する条例の制定について

議案第十八号

館山市学校取組給与条例の一部を改正する条
例の制定について

議案第十九号

館山市消防団条例の一部を改正する条例の
制定について

議案第二十号

館山市取組等機旅費に関する条例の一部を
改正する条例の制定について

議案第二十一号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関す
る条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十三号

館山市畜産奨励委員設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十三号

非常勤の特別取組職員に係る報酬及び費用弁償に關する条例の一部を改正する条例の制定について

議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午後二時四十二分

休憩

午後三時〇三分

再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き會議を開きます。

社会教育課長(利田正男君)議案第三十五号館山市文化財保護条例の一部を改正する条例について説明申し上げます。
本条例は従前費用弁償だけに止めてあった条例でございます。

二 食 山 日 議 会
ますが、最近文化財保護に関する関心が非常に高ま
て参りまゝたうで、委員に「年額二千円」、報酬を差
上げた。こういうところから、条例の改正をお願いするわけで
ございます。

・庶務課長(干場伊右エ門君) 館山市図書館条例の一部を
改正する条例でございますが、これは特別取等の報酬改
正に伴うものでございますが、条例の序にそれぞれ額が規
定されておりますので、これを別個に出した次でございま
す。今まで年額四千円、報酬でございまして、それを「四
四百円」に改めるといふことでございまして、これを「昭和三十
年十月一日」にさか上つて支給するといふことでございま
す。続き議案第十七号 館山市教育長の諸給与及び勤務
条件等に関する条例の一部を改正する条例について、保護
明申し上げます。

こゝは、今回のベースアップに伴う改正でございます。教育
長の給与「六万円」とありますのを、「七万円」に改めるとい
うものでございます。

それから旅費でございますが、今まで車賃「七円」はそのま
までございます。

日当でございますが、今まで県内が「三百円」、県外が「三
百五十円」となっておりまして、こゝを日当「四百五十円」
一本にいたしました。次は宿泊料でございますが、こゝも、
県内が「千三百円」、県外が「千七百円」となっておったのが、
こゝも一本になつて「二千三百円」でございます。

食卓料、現在までは「三百五十円」だったものが、「四百円」、
内旅費が今まで「四十円」だったものが、「五十円」でございます。
こゝ、条例は昭和三十九年四月一日から施行するものでありま
すが、第二項の「六万円」を「七万円」に改めるということは「昭

和三十一年十月一日から適用することとでございます。
次に議案第十八号鑑山市学校取員給与条例の一部を
改正する条例について、説明申し上げます。これも今回の
ベース・アップに伴う学校取員給与条例の改正でございます。
して、先ほど秘書課長から説明がありまして、通りでございます。
ます。ただ違ふところは、附則の第二項に「高等学校
教諭等」の号給の切りかえしということとでございます。この中に
「二等級である取員で切りかえ前の号給に一を加えた号数
を号とする」ということとでございます。

あとは扶養手当、通勤手当、期末手当、勤勉手当等は、
学校取員給与条例によつて市役所取員の例によるとい
うこととでございます。よろしくお願ひいたします。

・消防署長（岩田実君）鑑山市消防団条例の一部を改正する
条例について、説明申し上げます。

これは消防団員の報酬をベースアップするものでございまして、
大体階級にございまして、一割のアップになっております。ただ一番下
の団員が従来千五百円であつたものが千七百円になつて、
ございまして、これは昭和三十八年十月一日からさか上つて支給
する。よろしく申着候うほどをお願いいたします。

・業務課長（山口実君）館山市取員旅費の改正でございまして。
一等級、二等級以下四等級、五等級、このらについてはかわつ
ておりません。

鉄道賃、船賃、これも従来通りです。車賃、これも従
来通りでございします。

日当につきましては、従来、県内、県外、二本立てにてあつた
ものを今回「四百五十円」従来は、県内「三百円」県外は
「三百五十円」これは一等級、二等級以下四等級は、県内
「二百五十円」県外「三百円」これを「四百円」。

五等級より相当でございますが、従来、県内「二百円」、県外「二百五十円」を三百五十円。

宿泊料につきましてもやはり県内外が二本立だったものを今回一本に改めまして従来より一等級より県内「千三百円」、県外「千七百円」を「二千三百円」、二等級から四等級につきましてもは、県内「千五百円」、県外「二千二百円」、五等級につきましてもは、県内「千円」、県外「千三百円」を「二千円」

食卓料につきましてもは一等級「三百五十円」を「四百円」、二等級から四等級につきましてもは「三百円」を「三百五十円」、五等級「二百五十円」を「三百円」、市内旅費については「四十円」を「五十円」に改めるものであります。

議案第三十二号、館山市長、助役、収入役、給与及び旅費に関する条例の一部改正についてでございますが、これはやはり

給料表の改正でございます。市長「十萬一千円」助役「九萬三千円」収入役「七萬一千円」このように改めようとするものでございます。

市長につきまゝでは、従来通り、

次に別表ニ表の旅費におきまゝでは、車賃従来通り
日当でございますが、県内外二本立にてあつたものを「三百五十円」「四百円」を「五百円」に宿泊料「千五百円」「千九百円」を「二千五百円」食卓料「三百五十円」を「四百円」に改めまゝだ。

旅費規定につきまゝでは、三十九年四月一日から給料表につきまゝでは、十月一日から、こゝらう月額給料表につきまゝでは、鎌山市と政政事業をいば同下にしている市町村の状況を勘案いたしまして、こゝらうにきまゝだ。

次に議案第二十五号鎌山市畜産奨励委員設置条例の

部を改正する条例の決定について、この改正は、畜産奨励委員の報酬の改正でございます。従来「千五百円であったものを今回「千七百円」の一割程度上げたものでございます。次に議案第二十三号非常勤委員の特別取組取組員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の決定について説明申し上げます。

議長「四万二千円」副議長「三万六千円」議員「三万円」そう前に第七条二項中「件でございますが、これは十二月に支給します期末手当の率でございますして、従来のもを「百分の二百三十三」に改めようとするものであります。

以下、各非常勤につきまゝでは、従来報酬額を約一割程度上げたものをここにお願いしようというものでございます。適用でございますが、体育指導員、文化財審議委員、これにつきまゝでは昭和三十九年四月一日から、ほかにもつたし

まゝでは、昭和三十八年十月一日より適用しようというものでございませう。

議長（黒川佐太郎君）以上をもちまして議案第十五号乃至二十三号の説明を終りまして、続いて、これに関する質疑を行ないます。

一 番（辻田実君）議案十五号の文化財保護委員、報酬のことでございしますが、これにつきましても、従来三十一条で参りますと、実費支給という費用弁償ということになっておったわけでございますが、このようにして割合少ない額を固定してしまふと文化財保護委員という特殊な研究分野の深いものについて、予算がアツクできて、まうような気がせず、さうですけれども、その点についてはどうなうか。私はこの面につきましても、どちらかといえば、従来文化財保護委員の研究調査費というふうな面において十分支給

してやった方がもつともいいやではないかというふうに思いますが、この点についてはただ機械的に年額二千円という額を支給した方が委員のためにも今後、館山市の文化取保護のためにもいいやかどうか。

・社会教育課長(利田正男君)も答えていたします。この委員の中に従前館山市に非常に縁が深い方が市外に移られた方がおられます。そういうような方に対しては諮問などいたしまして、お出かけになる機会が少ないものですから、全然サービスができなかったわけでございます。離れた人が利用度が少ないかと申しますと、専門的な知識が必要でございますので非常に離れておいても有益な指示をいただきますのでそういう方を逃してしまいたくないということでもやめてもサービスをしていただい。こういう考え方でございます。

○三番(菊井敏博君)我々市会議員の給料は二万五千円を三

万円に上げてもらったわけですが、市長の給料が上っていない。
今まで市長の給料が高いから上げなかったが、市長自身が
十二分の賤政がないから上げなかったが、市長自身が
十二分の賤政がないから上げなかったが、その点をお聞
かせ願いたい。

・市長（本町鑛君）私は現在、給料で十分市長として、取務
が果たせる。こう思いまゝて辞退いたしました。

・三一番（安沢徳順君）学校取員の給与についてお伺いいた
します。

幼稚園の教諭ですか。先生と申しますか、主任でどの程度
もらつておるか。

・庶務課長（干場伊右卫門君）主任給では三万八千円と記憶
しております。

・三一番（安沢徳順君）保育の先生の給料が非常に少ないとい

うことに仰いておりですが、同じ館山市の取資でありながら、差があるということはどうかと思ひますが、その点で言えば、同類ベースにやっていた方がいいと思ひます。

・五番（田中祿郎君）館山市の文化財のことについてお伺ひいたしますが、今まで市の文化財として保護の料金といひますか。保護する費用を出したことがありますか。それともございませんか。

・社会教育課長（利田正男君）文化財審議委員会につきましては、議会側からセッションがありましていろいろ手を尽くしていただいております。このような立派なものがございます。伺っておりますが、なおこの行き届いておりませんですが、只今田中議員の質問につきましては、過日遠藤順治先生が展覧会をなさいますときに無形文化財に対しますお手伝いしてございますが、文化財の条例の十三条に

よく経費の負担として特別に予算を組むというほど大きく予算の支出はしてございません。

・五番(田中祿郎君) なぜ、こういうことを申し上げるかと申しますと、市の文化財でありながら、立派な先生が保護委員になつていらしても地元にそれだけの淨財がないと、私の方、潮井戸の件でございしますが、これも県の文化財といつても県から一文もない。観光客がくもければとも「潮井戸」がどこにあるかわからないということとで文化財が死んでしまふ。土地だけでは保護してはいけないと思うのですが、市の文化財委員というものがございますから、そういう方々に相談して、市の文化財は市で保護していただく。県の文化財は県で保護していただくというふうにしませんと、文化財というものがなくなつてしまふので、希望でございますが、市長さんの方と相談なさつて、保護の費用を取つていただきたい。

こう希望いたします。

三四番(山本昇君)一括審議しております議案につきまゝして
 総合的な問題でございますが、ベースアップの問題、或い
 は旅費の改定、特に旅費の改定につきまゝでは、今ま
 で^いあまりに定情に促していかつたというふうに私も
 考えておつたので、この改正は少しでも早い方がという考え
 方を持っておまゝでございますが、今回このうた本年の四月か
 ら改正されるという事とに結構でございますが、この旅費
 の改正を含めまして、今回、給与の改定、その他につきま
 して、市長さんは、市独自の立場でやつたのか、それとも
 このうたことが時代、趨勢であり、また県下各市、諸般の
 状況等を勘定してやられたのかどうか、その点をお考え
 を聞きたいと思ひます。

市長(本間義君)ベースアップ等につきましては、国及び各市の

情勢とそれから館山市の現状からして妥当と思われまし
たので、やったわけでございます。

。助役（小島武男君）旅費につきまゝでは、今山本議員からお
話がありまゝたうにもうすでに二年位前からやるもので
あったのですが、延び延びになつておつた。こういうことは、事実
でございます。

こゝ願ひ決定につきまゝでは、渠、各市の実施してある状
況を調査いたし、まゝで、その中間を取つて一応こゝ線
を引くということでございます。中間と申しますよりも、むし
ろいい方ではないかと思ひます。人並みに旅費がきめ
られたというふうにお考え願ひたいと思ひます。

・三四番（山本昇君）基本的にわかりまゝだが、旅費の問題に
つきまゝでも、各市の状況を見て適正な線だというふう
に考えてやったということでございますが、もちろん一般取

につきましては、人事院の勧告に基いてやったと思いますが、その他、いわゆる特別取でたくさんございます。

各種委員の手当等議案第三十三号にございますが、こゝらは国や県が指示があつてやったのではないだろうと思ひますが、この点につきましては、やはり旅費と同様に各市の状況を勘定してやったのか、それではなく、県から県一つづつ基準が定めてやったのか。

・助役（小玉武男君）各種の特別取でございますが、これにつきましては、先般六市の助役会議がございまして、三役委員会を含めまして、その他、ここに存じますようなものを検討した上でございまして、いづれも実績に促した額ということにはならないが、各市の状況でございます。

一、既存のものも一応基本線に置いて、そうして、二、除、幾分づつでも上げるべきではないかということ。

やはり、大體一割程度でございまして、館山市も個々に申し上げますならば、若干の凸凹はあると思いますが、一応、六市の状況を勘案して相俟として参った結果、こうした線を一線であります。

・二三番(中村省吾君) 学校取員給与条例の一部を改正す。条例の中で統括的に伺いておきたいのは、特にこの中で行政取の関係の給与表でございすけれども、この中で初任給与格づけというものの基準が、どうか、関連して申し上げますが、初任給与格づけがどうなるに
なっておりますが、簡単にこの点をお伺いしたいと思います。

なお、昇格の問題ですが、昇格基準等をどう扱っておりますか。これを簡単にあるとかないとか、そういう点で結構でございす。

庶務課長(干場伊右エ内君) 学校取員の行政取関係の初任給

の格づけでございますが、現在、高等学校を卒業して一定事務取員試験に合格した者、その中から選定いたしまして、全然勤務年限のない者を五等級の一号ということをやっております。

昇格基準については、ある年限を勤めた者をその勤務成績によって昇格させるということでございまして、何年ということではなく、その勤務内容、年限そういうものを考慮して昇格させております。

・二三番(中村省吾君) まず、第一点の初任給の問題でございますが、御答弁の中でそういったことは、試験に合格した者の中からいわゆる前歴を勘案するかどうかということではございません。その人が官庁に勤めておったとか、或いは学校で教育取にあつた者とか、或いは、学校卒業して直ちに入つた者だとか、そういった点が本来ならば初任給

の格づけについて条文があつてゐるべきだと思つたが、その點がはつきり明記されてゐるかどうか。このことでございます。

・庶務課長(千場伊右エ内君)これは前歴は勸業されております。全部前、例えば同じ取務、教取員を一年やった場合に一年見る。二年やった場合に二年見る。

・二三番(中村省吾君)それから前歴を算定するということ、いいわけでございますね。そうすると、その點について初任給が上つたわけです。

そういう観点から従来の経験年数というものを算定しておるということになります。今、初任給が上つても、その割合に、例えば、五等教員一号から五号位まででございしますが、初任給が上つても、勤続年数二、三年の人と初めて採用者とやはり相當な開きができておるというふうに理解してよろしいでございますか。

庶務課長(干場伊右エ内君) 只今や質問は勤務年限によつて差が出ておるかどうかということでございます。

二三番(中村省吾君) はつきり申し上げますと、そういうふうには

つきりした公務員並みの基準が出ておたならば矛盾がなかなか起きないんですが、私も考えると矛盾があるやに聞いておるわけでございます。初任給が是正されて

くる。そうすると去年採用された者が例えは一萬六千円で採用されたわけです。今年採用者が一萬二千円、こ

ういうことですね。それで、その人たちが、そうきき去年の一番極端な例でございますが、一年に満たない場合は、同トになるわけですね。今年採用された者と、そう

いう差が出るわけなんです。こういうことが積み重なると

と、何だか勤務年数三年にもなるけれども、同ト高

校年であってもよとから入った者に追いつかぬという形

が出てくる。こゝういふことがあつたのではないかと思つてです。

こゝういふ給与体系の中では従つてもう少し。今後全然経験年数のない者でそういう姿になるわけですから。経験年数を持つて入ってきた者でもそれを勘案さしないということになる。なかな大きな問題がある。その点はつきりするということをや。答弁なされた。私はどうか。納得できないのは。何かやはり差があまりできないで去年の人と縮まってきたものであるように思へるのですが。

・教育長（工藤和平君）只今や質問の趣旨はよくわかりません。当然凶凶是正をやらねばならぬと思ひます。その点につきまゝでは、教育委員会や学校取員、行政取、それだけを単独に考えるということではなく、その他に関連する市長部局等もございまして、研究をして検討して見たいと思ひます。

ニ三番(中村省吾君)それはそう通りです。又今のことは一般取
 の場合も同じでございますから、私はそのことを承知で質問し
 たいわけですが、教育関係でどう点々となつておるかということと
 質問したいわけですが、昇格の問題ですが、これもいわば、主
 観によつて上ることがあるわけですが、勤務成績が良好
 の者ということはいわゆる見事かということになると、主観によつて
 左右される。そういう点で、例えば取員に對して、勤務意
 欲を盛り上げる制度であるかということですが、その点
 についてどうお考えになつておるか。

・教育長(工藤和平君)ただ今、中質問の趣旨にいたして、
 ても私も実は、年に年勤功序列ということでは、
 率的なものも、勘案すべきだということでは考へております
 けれども、現在、段階でそう割り切ることがどうかと思ひ
 ますので、こゝまでいろいろな関係当局と相談をいたしま

して十分や實向に答えることができない。これは遺憾でございますが、いわゆる主観によつてそれをするとすることは極力避けて客観的な資料があれば、例えば欠勤数でありますとか、そういうものであれば格別でございますが、現在には民主主義的な考え方でやつていきたい。

・二三番（中村省吾君）それからもう一点、今の昇格に若干関係はいたしますが、役づけの定数というものがあつたどうか、学校の方はよくわかりないんですが、ある程度事務取員の中で役づけというものがあつたのではないかと思つていますが、従つて等級表も一等級から五等級まである。その場合、役づけによつてそれが三等級になり一等級になるということがあると思ひます。その場合の定数的なものがあるか。

・教育長（工藤和平君）ございす。これは例を上げますと、事務長、県立学校の場合には大体一等級が課長でございますが、二

等級、三等級になっておるわけです。経歴でありますとか、
いふような関係で二等或いは三等になる。館山市の場合は
私は課長補佐位に考えまして二等級の取扱いをしてお
ります。

○二三番(中村有吾君)それでなくてその下に主任クラス一般取で
いうならば課長補佐とか主任とかあるわけです。そういうた
役取があるのかどうか。あるとすればそういう定数的なものかあ
るかどうか。

○教育長(工藤和平君)ございません。ただ事務取員と補助員と
いうことになっております。補助員というのは資格のない者。

○六番(秋山六三郎君)取員は旅費でございしますが、旅費の中は
車賃がキロ当りの車賃が出ておりますが、等級によって
差が出ております。

実際に場合になりますと等級によって差がないというのが

現実だと思ふんですが、こういう格差を付けるのは、おそらく私たちが若い頃からあらゆる官庁とかそういうところの旅費の基準がこういうふうになつておる中で、それを踏襲しておるというふうに考えますが、こういうことは現実の向題としてそぐわないような感があると思います。この点どういうふうに考えますか。

。助役(小出武男君) 車賃が一キロについて、格差ですが、これは確かに今のお説の通りです。現状においてはおかしいと思います。ただ前々からうーさたりでやつておるんですが、せめて理由づければ等額の高い人はなつとした場合でもタクシーに乗るとか、そういうことで、現実の問題については、こゝに重点は置いておりませんが、慣行上、こういう条創をふいた、深い意味はございません。

。六番(秋山六三郎君) それからなお、食卓料でございしますが、こゝ

は、どういふ場合に支給するものであるかお伺いいたします。
・助役(小出武男君)こゝは船でございませう。船で一夜を過した場合には宿泊料を支給しないで食料料を支給する。ほとんと該当はございませう。

・議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。

議案第三十五号乃至議案第三十三号に附する質疑はこゝにて打ち切り討論者略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さしませう。
暫時休憩いたします。

午後三時四十九分

休憩

午後四時五分 再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
日程第五議案第五十号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第五十号 釧路市上水道特別会計条例の制定について
厚生課長(吉田耕一君)議案第五十号につきまして中説明申し上げます。

本市で従来管理・運営をしております宮城並びに南条水道でございしますが、国から借り受けまして管理・給水をやっておりますのでございしますが、今回、法二百九条第二項に基づき、まして特別会計をもつて運営をしていくというふうな考え方をもとに、今回特別会計の条例を制定いたしたい。このように考えて上程した次第であります。

まず一条につきまゝして、その目的によつて設置する
うだということの規定いたしまして、二条が、この特別会計
の歳入と歳出を規定した次でございす。このように
歳入或いは歳出によつて運営をいくということの設
置規定を指定した次でございす。

なお、細かい運営、管理上の細部につきましては、うちほど
でございます管理、運営、条例によりまして、その次議を
願ひまして、運営していきたい。このように考えて上程した
次でございす。

議長（黒川佐太郎君）本案はこれにて質疑を打ち切り、討
論省略、原案通り可決する、中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よつて本案
は原案通り可決されました。

日程第六議案第五十九号を上げたいします。

(書記胡統)

議案第五十九号 昭和二十八年年度館山市一般会計歳入歳出

加更正予算。

・総務課長(山口実君) 議案第五十九号 昭和二十八年年度館山市一般会計歳入歳出追加更正予算の中で歳出の方からや説明申し上げます。

今回う給与改定に伴う給料の支払い、報酬の支払い等に予算措置をいたし内容を申し上げますと追加でもって処置いたものが四百四十四万九百円、更正で措置いたものが三百九十八万七千三百七十円。

第二款市役所費について申し上げます。

二十五節の備品費について申し上げます。自動車購入費百三十八万とありますが、今回乗用車を購入すま

計画の額をここに計上いたしまして。

次に原付自転車三台分、これはトータルハツウ五ナCCを
購入しようというものでございます。

三十二節の負担金補助及び交付金のうち、千葉大学講
堂建設寄付金五十五万円、これは千葉医大でござい
ます。八十周年記念事業といたしまして、千葉医大でも
千五百人を収容する大きな講堂を作るわけでござい
ます。この経費は約一億五千万円でございす。これらに
伴う地え負担金といたしまして、千葉市を含まない十
七市でもって約一千万円、割当がふつたのであります。
この一千万円を十七市でもって、人口割で負担してい
た。よくよく参ったものをここに計上したわけでござい
ます。消防署長(岩田実君)第三款消防費、消防団費につ
いて説明申し上げます。

第一節の報酬十万円、これは消防団員の報酬のベース、
又それに伴いまして、追加をお願いする次第でございます。
二十五節の備品費でございますが、これは可搬動力ポン
プ二台、一台は二十五馬力、一台は四十五馬力のものでござ
いまして、二十五馬力の方が二十万円、四十五馬力の方が二
十七万円の価格であります。今まであった可搬動力ポン
プが老朽いたしまして、使用に耐えないというような状況で
ございまして、この二台を購入したいと思っております。
・建設課長（新井重助君）土木費について、説明申し上げま
す。道路橋梁費の維持修繕費につきまして、原材料
費四十万円の追加でございますが、これは最近交通量が
非常に多いので、砂利を購入してかかすというつもりで
四十万円をお願いいたしました。

次の新築改築費で負担金、百十万円でございますが

こゝは最近になりまして、神余道路の改良を果で行ない
ます。こゝが工費四二百万円に對する四割の負担金八
十万円、滝ヶ原の鋪装でございますが、こゝは岩崎橋
から三芳村に向かつて、郵便局がございす。あの
所の鋪装をやりますので、百八十万円の四割、四十五
万円、富浦橋梁でございますが、こゝは富浦町で施行
いたします。小原と富浦の境界にございす橋をかけか
えに當りまして、富浦で五十二万八千円の工費でやる
ことになりまして、市で十五万円負担して、くれという
お話がございまして、その十五万円を負担することに
なりました。

港河川費におきまして七十万円、こゝは船形、船山、
富浦の修築工事。当初九百万円の予算を計上して、
ございす。全部設計いたしまして、八百三十万あれば

間に合うということでございますので、その不用額七十万円を減額したいというものでございます。

次の都市計画整備費でございますが、施設費で十三万円減額いたします。

これは補償費において三十万円不足いたしますので、三十万円追加いたします。

公園整備費で八十五万円、工事費の追加をお願いするのですが、これは北条海岸に無料休憩所を果で施設する。それで四百九十七万円の事業でございますが、それだけで、事業が全部完成いたしますので、そのうち、給排水工事と下に土間にたきを打ちます。コンクリート二百九十平方メートル、道路から中が見えないようにブロックを積みますので、その費用を百八十万円、お願いいたします。して休憩所の完備をはかりたいと思います。

その費用として八十万円の費用をお願いいたした。

庶務課長（干場伊右エ内君）教育費についてや説明申し上げます。四百七十五万二千百円の追加でございますが、まず教育委員会費で百四十七万の減でございます。

委員報酬で三千四百円は今度、改正により追加でございます。

取員給与で百十三万四千四百円の減でございますが、これは当初委員会に見た人員よりも高給給者の限取及び人員の減に伴いまして、これだけ不用額が出たわけですから諸手当も同下く十六万三千円の減でございます。

取員厚生費も二十一万九千円の減でございます。

需用費の六千円の増は臨時用人の賃金が増でございます。そして更正は燃料費と食料費、通信運搬費への更正でございます。

小學校費の二十万七千円の増は、校医報酬、取員給、諸手当、これは今回のベース・アップに伴う関係のものでございます。需用費の六万二千円の増、それに伴う各更正でございますが、ふえたものは電気料でございます。そして、各小學校に配当いたし、よりた需用費関係の、それにより、各小學校からの更正要求に基いて、この更正を行なったものでございます。

次は中學校費の十五万八千二百円の増でございますが、これも校医報酬、取員給、諸手当関係のベース・アップに伴う関係の増でございます。需用費の更正は各小學校に配当した額での更正によるものでございます。

高等學校費の五百二十万円の増でございますが、これは、校医報酬、取員給、諸手当の、関係と需用費におきまして、三十二節の負担金補助及び交付金、四百六十万円は、渠五の三校の寄付でございます。そして、安房校が二百万円

南校二百万円、安房農六十万、合わせて四百六十万でございます。 養護費が九十万円の工事請負費でございますが、これは、館山高校の大災放置器及び電気施設、関係の増加でございます。

幼稚園費が四十四万六百万円増でございますが、これは園医の報酬と取員給諸手当、取員厚生費、ベースアップに伴う関係のものでございまして、需用費の十二万五千円は賃金の減とそれから修繕料四万、備品費十万六千円、養護費で修繕料九万でございますが、北条幼稚園の関係の園児三十八名増加に伴う修繕関係でございます。

次は社会教育費におきまして十九万四千八百円の増でございますが、これは委員報酬、諸手当関係の増加、それと公民館費におきまして修繕料、天井張り、その他に十四万円、視聴覚教育用具として備品費の関係でござ

ございます。婦人会館は、看守人、雇上料ベース・アップに伴う増加でございます。

青年学級費でございますが、印刷費に充てるため、厚生でございます。

図書館費、ベース・アップに伴うものでございます。

体育費、更正、ベース・アップに伴う更正関係でございます。
福祉事務所長（鶴田貴寛君）第六款 社会及び労働施設費について説明いたします。

生活保護費におきまして、八十万円の追加でございますが、これは生活扶助、医療扶助の増加に伴うものでございまして、この中に新年度の教科書代七十四人分、八万円、学童服の支給二十六人分、六万五千円などが含まれております。

児童福祉費の需用費でございますが、これは子供の日

の行事を今年は人事異動等のために取りやめたため、更正でございます。

保育所費でございますが、報酬は今回、特別取増額による不足分でございます。需用費、備品費、五万五千円、これは保育備品の購入でございます。内容は積木、三輪車等でございます。

身体障害者援護費は旅費の追加でございます。福祉事務所費の報酬はやはり嘱託医報酬の増額による不足分でございます。

住宅管理費の修繕料で二万円、これは富崎にございます。引揚者住宅に入る道がこわい、そのため修繕料でございます。

老人福祉費で臨時用人料六千円不足分追加。戦傷病者特別援護費扶助費といつて三万五

千円、これは二月二十一日に行ないまして巡回相談によりまして、補装具を支給する該当者が出て参りましたために三人分の扶助費でございますが、これは全額国庫負担でございます。

・建設課長(新井重助君) 十四項の失業対策事業について市説明いたします。

失業対策事業は予定より夫の数が減りました。当初予定いたしましてが、四千四百九十六名を予定して工事を施行いたしましたが、実施に当りまして最終的にきまりましたのが、三千四百六十五人となりました関係上、報償費におきましても就労人員が少なくて、二十万円が減額をいたしたい。賃金でございますが、これもそれに伴う金と着る厚生資金も減りまして三十万円減額いたしまして、備品費において六十三万五千円、小型貨物自動車

を買ふということでございます。これは労力がだんだん減
つて参りますので、機械力によって工事執行量をカバー
していろいろ、こういう考えのもとに小型自動車を買いまし
て現場において小さいものを買つたものと小型自動車を
でやつていく。これにつきまして国の方から半額の三十万円の
国庫補助金がかかるということで確定いたしまして、それで
六十三万五千円で事業を進行に当りたいと思つており
ます。

原材料費十三万五千円、これも購入残金が生じました
ので、更正いたしまして。

厚生課長(吉田耕一君)保健衛生費につきまして、市説明申し
上げます。

予防接種費でございますが、二十三節の修繕料、二十五
節の備品費におきまして、おおむね六万五千円、三万五千円

の不足を生じましたので、今回追加をお願いしようというものでございます。

次に伝染病予防費でございますが、五万円につきまゝで、一部組合の負担金に不足を生じた関係でございます。最初予定してありました人員よりも多くの患者の収容があつたということによる結果でございます。

次の火葬場費でございますが、各々火葬場を運営する上に必要な消耗品、光熱費、水費、修繕料というふうなものにつきまゝで、おまの不足を生じたので一万五千円の追加をお願いいたしております。

次の環境衛生費でございますが、二万五千円につきましては、衛生研究会の負担金につきまゝで不足ができたという結果から今回五千円をお願いしたい。

このように考える次第でございます。

次の清掃費でございますが、清掃費につきましても、清掃
 耗品の三万円、これは自動車、オイルの不足、それから燃
 料費の十万円の不足、二十二箇のゴミ容器の購入
 補助金の不足額四十二万円というふうなものが主な
 ものでございます。

次の衛生処理費におきまして十六箇の通信機費
 におきまして電話代に一万五千円程度の不足を
 生ずるという結果になるのでお願いするわけでござい
 ます。水道費におきまして十五万一千円を今回追加を
 願います。いろいろございまして、各節おあり不
 足を生じたいわけでございまして、追加をお願いする
 次第でございます。特に施設費の四万円でございます
 ますが、これは南条水道の大口附近にあります
 ところの十一軒の新規加入がございまして、そういた

関係から、こういう施設を買収費というふうに説明してございませう。それから前に農協でもって二つ必要だということ自分で管を買ってこちらで監督いたしまして施設したものを使用すれば、十一軒も別に引く必要はないのだというふうな関係からいたしまして、それから農協で施設したい管を一応市のもうとて買収して、もうというふうな関係から施設費の中に四百円計上したわけでございます。それから他光熱水費等につきましても、電気料の不足をここへ計上したわけでございます。このような関係で今回二十一万一千円追加でございます。

農産統計課長（伊藤幸太郎君）産業経済費のうち、第一項農業委員会、第二項農林費につきましても、今回給与改定、報酬等、改正による追加更正でございます。すうで省略いたします。

第三項の土地改良費でございますが、今回八十九万八千円の追加をお願いいたわけでございます。その内訳といたしましては、原材料費で三十一万五千円、これは市内各地域にございます農村部落の農道の改修のために原材料を交付する資金の不足でございます。

次の四十五万の加賀名の共同事業執行のところでございますが、今回加賀名地域におきまして約二千メートルの中買三メートルの農道を新設と補修と両方かかるわけでございます。工事をお願いということで概算四十五万円補助金を交付いたしたいということでございます。

ただし、この問題につきましては、一昨年当地区の従来からの部落有の財産の売却代を市が受け入れています。そうして受け入れました売却代は地区のいろいろな仕事に使用してはいくという約束になっておったものでござい

まして今回、四十五万円工事を施行したい。

次う十三万三千円の県林道協会が負担金でござい
すが、これは神余、畑に通じます林道も現在約千メ
ートル程度果て単独事業として施行してあるわけで
ございますが、それに対して約二・五％程度、地元の市町
村の負担金を協会に納める制度になっておりますので、その
額として十三万三千円が協会負担金をお願いしたいと
いうことでございます。

。商工水産課長（長谷川広治君）商工費永産費について中
説明申し上げます。

商工費で通信運搬費として八千円計上いたしました。
これは、各市物産表に出品物の輸送料の不足、三十二節
負担金五万円、これは市内の各商店主等が集団求人
協議会というものを依りまして従業員が地元で求めら

いないために東北方面に求人いく仕事をいたしておるわけでございますが、大体年間六十万円位予算で本年度も行なうということと、そ一部として五十万助成したい。このように考えて計上した次第でございます。

水産費補助金百二万計上いたした。これは三十七年度におきまして、国立の海員学校を大賀地先、え、所、空に誘致をいたしたわけでございますが、たまたまその敷地不足地内に十四世帯ばかりの方が建物を、財務部からお借りしておるわけでございすが、海員学校が校地の拡張に伴いまして、たちのきをしてほしい。こういう要請がございまして、二年間にわたりまして、いろいろ交渉をいたしまして、たが最終的に交渉が妥結をいたしまして、仮調印を済まして、たわけでございます。

交渉の要結点は市営住宅程度のもを市で建てて

それに越へたい。こういう要望に對しまして、市で二十九万八千円を数年間にわたって支払う。ただし、住宅金融公庫に融資う幹族として、住居が完成をするまで市でめんどうを見る。そうして、その後引き受けていただくということである。金額としては、立ちのき補償料、二十九万八千円というふうに取りきめがなされたわけでございます。今回百二十万計上したわけでございます。そううちの四軒でございますが、住宅金融公庫の融資を受けなくて、自己資金で建てたいということ、で市の補償を一時金でもらいたいということ、交渉がありまして、ために四名の方、人を日割計算と申しますか、その交付の式を考えまして、減額と申しますか、公定利率の割合をもちまして減額し、一時金として差し上げたい。かように考えて計上した次でございします。

三十二節の負担金として、四十万九百十九円を計上いたします。

「^{その}内訳は漁船近代化事業の利子補給金二万四千九百十九円、県の補助金がありまして、それを要けんとして各事業者にそのまゝ交付する。こういうことでございます。

水産振興助成金として二万六千円、漁船の~~購~~建造とか、漁具の建造、そういうものに対して、まして条例で費用の負担をいたすことになっておりますので、その総額が二万六千円はやり足らなく、まして、追加をいたす予定でございます。次に、いわし生簀の改良三十五万円、これは船形、揚繰網業者が中心になりまして、いわしをいけます生簀の改良を研究いたしたものでございますが、現在まで、百八十九万円、研究費と申しますか、資材費をいまして、使用して、このわけでございますが、金額を負担する、というわけには財政上いきませんので、本年度特に三十五万円計上いたし

まして、そり一助にいていただく。こういうことで計上いたした
ものでございます。

・観光課長（小沢正治君）観光費について中説明申し上げます。
今回追加の合計七十二万五千円、これは城山の整備を
現在急いでおるわけでございしますが、おおむねやはり等も
成定いたしましてつづいても植える段階に立ち至りまいた
ので、つづいて千五百本が仮金六十二万五千円、これを東京
都内から運搬するトラックの借上料、これは五万円、それか
ら、これを植える事内取及び地元人夫の賃入金五万円前
後とさらにけがりの清掃のたのめの人夫賃不足額約十
万円を見込みまして、合計七十二万五千円をお願いする次
いででございます。

・税務第三課長（多田俊一君）十三款の諸支出金うち七十一
万四千円が追加でございますが、そのうち市税徴収費の旅

費の中から二万円更正いたしまして、次の消耗品費といたしまして五千円、手数料として一万五千円、これは特別徴収振替り不足分でございます。

新年度支出金、これは市税の加算金も不足分を計上いたしましてでございます。

・総務課長（山口実君）今回も追加額千五百六十三万七千六百六十九円、歳出合計六億二千百三十九万九千九百九十九円でございます。次に歳入に移ります。

三款地方交付税でもって九百八万五千円追加をお願いいたします。

これは今回普通交付税が一億四千四百三十八万五千円に決定したのでその差額を計上したものでございます。

次に四款自転車競技収入でございますが、一応本年は、約二千万円をオーバーする予定でございます。そのうち

ここに千八百七十六万六千四百四十六円、不足額四千万二千六百四十六円をここに計上したものでございます。

使用料及び手数料、証紙収入でございますが大華湯使用料印鑑証明手数料ニつらば予足より多くなったものを計上いたしております。

教育補助金、高等学校校整備施設補助金でございます。これは今回約六百五十万程度というところでここに六百五十万施設費補助といたしまして計上いたしました。

九款寄付金については節によつて中止承願いたします。繰越金でございますが、昨年、繰越金は既に二千三百三十七万五千九百九十九円程度の予算に計上いたしました。二千四百二十一万九千七百五十円からその差額を更正したうでございします。

次に市債でございますが、今回、八十万円追加は、館野小

学校講堂の起債額が百五十万に決定してゐたので
ございますがさらに追加として八十万参ったので、これを
追加するゝでございます。

今回の追加歳入額千五百六十三万七千六百六十九円、
歳入合計六億二千百三十九万九千九百九十九円、歳入歳出差引
ゼロであります。

なお補足しますが、寄付金ところで城山植樹会寄付金
として五十万、京成ヤ会社から寄付金があつたものをこ
こに計上いたしました。

六番(秋山六三郎君)教育費、高等学校校費の中でござい
ます。果五三校に対する四百六十万円という寄付金でござい
ますが、これはどういう種類か寄付金というものである
か、この点をお伺いいたします。

助役(小出武男君)この高等学校三校寄付金と申しますのは

一高南校・安房農・この三校に対して、学級増をい
たいたうでございます。それに伴います新校舎の増築費
を地元において寄付をいたしてもらいたい。こういう要請が
ございまして、市・郡内、町村合のせよ、ちやうどこの倍額
でございしますが、市内にある二校については、この倍額、
山市が持つ安房農・高につぎましては、生徒数にすまして
比率でございまして、この割合、当寄付の申しつけがござ
いまして、市といたしまして、生徒入、学、緩和のため
やむを得ないと思ひまして、寄付を承諾して、この予算
を計上したわけでございします。

・二番(石井正君)教育費の中、幼稚園費に、園児が三、十
名の増加、修繕費として九万計上してあるが、これではサ
ないと思ふが、その点、どんな方法で修繕を考へてゐるのか
垣根等非常にこわけておつて、増員すれば、なお危険性

があるのであるが、そういうものも、新年度に改修する意見があるかどうか。三項目として、各学校通信費が非常にふえてきてゐる。これは市外通話のかけ方に問題があるといふことを監査委員から話されたので、そういう点について委員会として措置をして何か方法を取ったことがあるかどうか。今回もふえていゝものであるが、例を取りますと、近い市外で九分、十分話をしてゐる例がでてゐる。そういうものが各学校に見られる。非常に電話のかけ方に問題があるといふことがあつて、説明願ひたい。

。教育長（工藤和平君）も答へいたします。幼稚園が九万円、これは十分ではないと思ひます。いろいろ費用の関係では、幼稚園費も相当かかりますので、だからといつて入つてきた者にこれを負担させるというのも、筋が違ひますので、我々

財政事情の限度において計上したわけでございます。

なお、垣根等々修理につきましても、これも十分考えてありますので、続いて市審議願います値上げ等々問題と関連してお願いたい。それから通信費のことでもございますが、これは私も同感でございます。どうも話をしていても通じないということもありまして、どういうふうなことから、おそらく市外に対しても見らるであろうということが想像できます。ですから機会あるごとに電話の利用ということについて私の考え方を述べて意見を求めておるわけでございますが、学校の電話は私的に用いては困る。公器であるから極めて簡明に時間を切つて話をするようにな。ところが学校の実情によりまして電話も校長室、或いは教室に非常に離れておる。しかも棟がたくさんあるという場合に場合に合にまゝしては長いということがあり得るわけでございます。

す。そんな関係で学校当局も教員も努力しておる
のでございしますが、建物と或いは時々子供う状態
などに関係して、こゝのような結果が生じたわけでござ
います。

今後さらにそういう点に關して注意を促したい。
かゝうに思つておるわけでございます。

・二番(石井正君) 今度、助役さんに中答弁いただきたい
と思ひます。

今教育長の話では九万用では不足であるといふような
言葉があつたわけですが、不足であるといふことでこれを済ま
していいか。今度、三十八名は非常に問題があつて入れた
わけであるけれども、それ以上は覚悟して教育しなければ
ならぬと思ひますが、こゝ点について、助役さんの考えを。

・助役(小出武勇君) 九万用で私の方はいいと思つたわけでござい

まして完備しているかどうかということとはわかりませんで要求通り市から予算措置をしてたということとでございす。
できるだけ完備してもらいたいことは私も希望でございます。

○八番(西村真次君)これは全般に共通することでありすが、更正額の中で今度の給与或いは報酬の値上げによる増額というものが相当大きな率を占めておるのではな
いかと思う者であります。この費用を捻出するためには各課において当初予定しておりました事業とか或いは充
実すべき施設とかそういうものが行われなくなったといふ
ような事実がないかどうか。つまりこれを捻出するためには無
理をして施策の方に悪い影響を及ぼしていないかどうか。
交付税が相当多く上っておりすのでそういうような
ことはおそらくないだろうとは思いますが、一応はつき

リとそう点を伺いたいと思います。

・**総務課長（山口実君）**ただ今の点でございますが、去る六月で
 すぎ、市の職員十六名はやり退取したわけでございます。
 そうときの財源の大部分が更正さめてなかつたのでござい
 まして、このうち財源を更正財源といたしまして、処置した
 わけでございまして、一般事業を圧迫はしていない現状で
 ございます。

・**二五番（荻生田七郎君）**千葉大の講堂建設費五十五万四千
 円計上してあるが、国立大学でありまして先日と説明が
 ありまして、県立に対して地元負担金は四百六十万です。
 これは、我々の子弟が直接ご厄介になつてゐる。これは直
 接関係がございまして、すけれども、これとても、来年度からは、
 二万の地元負担金というものはなくするのだという国の
 通達に基いて、県も県費でやらなければならぬという

事態に迫られてゐる。こゝろは地元負担金を来年の県立学校増築に対して地元負担金は取れないという状態になってゐるにもかゝらず、国立大学が寄付金を講堂建設に取つたということは、その間の説明をお願いしたい。

総務課長(山口実君)　こゝ点でございしますが、向うから参つた書類によりますと、千葉大学八十周年記念でもつて大講堂を作るのだ。大体予算額は一億五千万、一千万、この講堂については、国の方として金額見られない。どうしても県、市町村の負担がなくては完全金にできない。こういうことで、県下十八市のうち一市を除いて一億五千万の中、一千万円を十七市で負担していただきたい。こういう問題がたまに市長会で提案されたわけでございます。十七市で一千万円程度ということは、人口割でもつて負担する

こういふ話ができたらいい。

・助役(小出武男君)今や肉題でございすが、こゝも市長会でいろいろ論議があつたようですが、一応県内の市長会が取り上げきつて、討議の結果、やむを得ないという結論が出て各加盟市長が協力するといふ経過をたどつて市にきておることを申し上げます。

○一 番(辻田実君)先ほど西村議員の質問と関連するわけでございます。

総務課長さんのお答えてございすると、市役所費の中で特に取員費の諸手当が二十万円程度更正されておるわけでございます。私に当初事務改善やなんやで相当数の残業等もあつて事務改善に對するところの面もあると言われておつたのですが、更正しなけいばならなかつたといふ点について先ほどの質問の中

ではこういうところに相当しわよせがきておるうではないか、
というふうに考えられますが、この点は、どういうわけで更正
しなけければならなかったか。その点についてもう少しくわしく
や説明願いたいと思つうわけでございます。

・総務課長(山口実君)　この減につきましては、去る六月、十六
名の退職者の手当が年間手当が組まれておつたわけで
すが、その以降の額がここでもつて余つてしまつたわけなん
です。細かい数字は持つていませんが、状況は、そういう状
況でございます。

市役所費に組まれた退職者の取員手当がここに余
つてきたということでございます。

・一々番(辻田実君)　そろそろですと、当然私は、そういう問題に
ついては、先ほど、決算委員会等でもつてかなり審議
してあるわけでございますけれども、条例通りの支給と

いうのがなさいていないわけでございます。そういうふうな
観点から、特にそういう面の財源三十万余ったということ
でございまして、けれども、一か一かながら、条例に合致しない面
があるわけでございまして、そういう面には、全然関係がない。
一時的に十六人、一人、月割かなんかでもって出さしたも
つたか。その点について。

。助役(小出武男君)暫定手当て申しますのは、中承知のとおり
各取員に全部何割かという率をきめた暫定手当てが
出ているわけでございします。

今説明いたしますようにやめた人の暫定手当て分等
でできたということでは、貸金とか、そういうものは関係ござ
いません。

。三番(君塚喜三君)京城から城山の植木のために五十万、指
定寄付金になさいた。これを原資として、今回城山につつ

う苗木を千五百本植える。そのようなことから、今回七十二
万五千円を追加予算を組んだ。大へん急いでいらっしゃる
ようなわけでございますが、このことについて別に反対するわけ
ではございません。ただ危惧する点は杞憂に終らばまことに
結構であります。が、これまで、城山に対しては植林が盛
んからして、管理者がいないままにあそこに植木をしても
育たない。この点非常に我々としては危惧しておるわけで
す。この追加予算を見ましても、管理者を置くという
ような点が見られておらない。この点に対してどういう
ふうに考えていらっしゃるのか。この点をお伺いいたらない
と思えます。

・観光課長(小沢正治君)これは整備ができたあかつき、従来
例から見ましても桜の木でさえ折らななりする例が多々あ
るわけでございます。従いまして今度植えるついでに、

小型になつて参りますと、当然、そういう心配が起きてくるわけでございます。この管理に關しましては、地元の親光協会の方々とも相談申し上げておるわけでございますが、当面の方針といつても、通勤的な山の手見回りで、管理というふうな形を重点的に取つて参りたい。このように考へて現在人選を地元に依頼してあるわけでございます。

・議長(黒川佐太郎君) 本案はこゝにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決さいます。

次に日程第七議案第六十号乃至第六十五号を上程いたします。

議案の説明を求めます。

・厚生課長(吉田耕一君) 公益質屋でございますが成績が上りません。

関係から減額に伴う予備費等におきましても、四十五万
合計八十五万円、減額をいたしまして、事務費の不足額
一万八千五百円をこいに使いまして残り八十三万五千五百円
を減額するということでごさいます。歳入も同様でござい
まして、貸付金収入におきましても、百五十万六千円、利子
収入におきまして十万円程度というものが見込みがないと
いうことで百六十六千円を減額いたしまして、昨年十月頃
だと存じておりましたが、流賃物をいたしまして収入が九万五
百円ございまして、なお減額いたしまして、たもつが不足
額を一般会計から六十八万四千円を繰り入れを願いま
して減額八十三万五千五百円の更正をいたしたい。
こういうふうに考えて提出した次第でございます。

・保険課長（池田亮山君）議案第六十一号国民健康保険
の追加更正予算について申し上げます。

今回、追加額は事業勘定におきまして三百九十二万二千四百円・直貯勘定におきまして四十七万四千九百円合計四百四十万三千九百円を追加でございます。

まず事業勘定の歳出から中説明申し上げます。

第一款役所費が一十八万八千九百円を追加、これは給与改定に伴う給与の不足を見込んだわけでございます。

なお賃金は臨時用人の賃金の不足額八千円を計上したわけでございます。

保険給付費におきまして三百四十九万三千七百円の追加でございますが、療養給付費におきまして三百三十三万七千四百円、これは一般医療費の支払いが当初見込みよりたよりも、この程度不足が見込まれますので計上したわけでございます。

次、療養費も不足見込み額を計上いたしております。

助産費でございますが、これも六万三千円ほど不足を見込み
まゐつたので計上したわけでございます。

三敷保健施設の五万六千四百円の追加でございますが、
これはいづれも給与改定に伴います給与不足額を
計上してございます。

次に予備費の追加でございますが、以上中説明申し上げ
てまいた歳出に充てます財源として前年度、繰越
金を財源といつた。また財源で、その余剰の財源をす
べて予備費に計上した。こういうわけでございます。

次に歳入第一款国民健康保険料におきまして三百六
十一万七千五百円の更正をいたしまして、これは当初予算
におきまして前年度の繰越金を充当いたしまして保
険料の賦課の軽減をしたわけでございます。

七百万円に相当する額を増額分が百七十七万四千五百

円低所得者層の減免といいたるより、百八十三万六千六百円、合わせて三百六十一万千五百円の減額をいたしたわけでございます。

次の第五款國庫支出金でございますが、ただ今申し上げました低所得者層の減税分に対する調整交付金が百八十三万六千六百円交付になる予定でございますので、これを追加いたした。

次の繰越金でございますが、今回は、五百六十九万五千九百円計上してございます。

これで前年度の繰越額全部予算化したというわけでございます。

診療所の会計につきましては、事務長から説明申し上げます。

・豊房診療所事務長（岩崎一郎君）直診勘定につきまして

申説明申し上げます。

歳出につきまして施設費の追加更正、これは諸手当の中の特殊勤務手当が若干余剰が見込めますので、そのものをベースアップ給与に充当したい。

次に第三款の予備費でございますが、これは前年度繰越金の残額を全部予算化するため、財源として予備費に計上した。こういうことでございます。合計いたしまして、歳出四十七万八千九百円でございます。

歳入でございますが、歳入で申説明いたしまして、繰越金百四十四万四千二百円。既に前回、前々回におきまして追加財源として計上しておりますけれども、その残額を今回予算化をお願いいたしましたというところでございます。厚生課長(吉田耕一君)議案第六十二号、と畜場につきまして申説明申し上げます。

歳出事業費におきまして二万三千三百円の不足を生ずる。今回の給与改定に伴う不足額でございます。

この財源といたしまして前年度の繰越金を同額をここに計上いたしまして歳出に合うようにいたした次第でございます。

次に議案第六十三号につきまして市税増徴申請を上げます。鉈切簡易水道の歳入歳出でございますが今回も追加三十万事務費の三十二万負担金補助及び交付金でございますが、簡易水道協会に對します負担金に不足を生じたわけでございます。

これは事業費割、今回鉈切簡易水道の工事費千九百三十六万四千円に對しますところの事業費の負担金でございます。この事業費負担金の算定基礎は千分三でございます。その額をここに計上した次第でございます。

ございます。

次の新設費の中の補償費でございますが二十万二千円、これはあそこの工事を実施する上におきまして作物等の損害というふうなものを一応ここに計上いたしまして、それからその工事を実施しますにおきまして技術者の監督委託料でございますが、二カ月分程度の不足を生ずるということで四万円の追加を計上した次第でございます。

歳入にこゝ三十万の財源といたしまして地元の水道寄付金に財源を求めるといふことで三十万計上した次第でございます。

・観光課長（小沢正治君）次に議案第六十四号休養施設会計について、説明申し上げます。

当初計画いたしまして、鳩山荘の会計は、前年度の実績を基礎といたしまして、若干の伸びを見まして、上で予

算化にわけでございますが、大体、我々の目標をオーバーするであろうという成績を上げつつあったわけでございますが、歳出の各節別に見ますと、相当残額を生ずる節と不足を生ずる節と凸凹が出ておりますので、最後の追加更正といいたまいて決算見込み額に合わせましてこれを調整していくという関係でございます。

取員給、諸手当、特に需用費の中、各節に基きまして食事関係の原材料費においては、五十万程度の不足が見込まれ、その他の消耗品、借料及び損料までの関係につきましては、それぞれ付記にあります程度、残額が生ずる見込みでございます。

それと、ス、ホステルの会計につきましては、最悪の場合、約二十万程度の不足額が生じやうなというふうは見込みになって参りまゝです。これを休養施設会計から繰り出

ーていきたいというものでございまして最終的には総額において変更はございませんで内容が決算見込みにいたします各節の追加及び更正というわけでございます。

引き続きまして六十五号ユース・ホステル歳入歳出追加更正予算について御説明申し上げます。これは大体利用率三十六%を見込みまして予算を編成したわけでございますがすでに三月も半ばでございますまして二月末までの実績の關係と三月における予約状況等から勘案いたしまして最悪の場合二十万程度の不足になるかと考えられますので先ほど申し上げますように休養施設から二十万円を補ていたしまして赤字のない決算にいたしたいというわけでございまして当初見込みました利用率百分之二十%を多少上回るといふような程度でございますので従いまして事業収入におきまして三百十八万二

千円程度見込みよりたもうが決算見込みでは二百十方
程度ということにかなためより更正減額でございましてそれ
并しして二十万の鳩山荘会計から繰り入るも含め
まして大体テスホステル会計の決算見込みといひしまし
ては二百四五十万程度というふうに見込みますのでこれ
につきまして各節の三月末までにこれを運営して参り
ますために各決算見込み額と現在計上されております
予算額との照合の結果どうなるか追加或いは更正を
して整理いたしたいというものでございます。

議長（黒川佐太郎君）以上で説明を終ります。

議案第六十号乃至六十五号に対する質疑を願います。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）此質疑なしと認めます。

本議はこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決

するに市異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)市異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決されました。

本日の会議はこゝにて散会いたします。

次回は明三月十二日午前十時開会といたします。

その議事は議案第七号乃至第十二号昭和三十九年度
一般会計並びに特別会計予算案の内容説明といた
します。

午後五時三十分 延会

本日の会議に付した事件

一 開会

一、議長報告（出席説明者）

一、会議録署名議員指名

一、会期の決定

一、請願書

一、認定第一号乃至第八号決算審査特別委員会委員長報告

一、市長施政方針並びに議案提案理由の説明

一、議案第二十四号

一、議案第十五号乃至第二十三号

一、議案第五十号

一、議案第五十九号

一、議案第六十号乃至第六十五号

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴

孝

田中祿郎

秋山六三郎

田村源治郎

望月照正

安西益男

辻田実

石井正

黒川佐太郎

菊井敏博

志村信依

小沢恵太郎

関武夫

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

若塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

荻生田七郎

鈴木孝

嶋田繁

山田敬字

鈴木市蔵

安藤亀吉

安天徳順

三天節

高橋 文治

山 本 昇

松本 藤太郎

山 口 康

